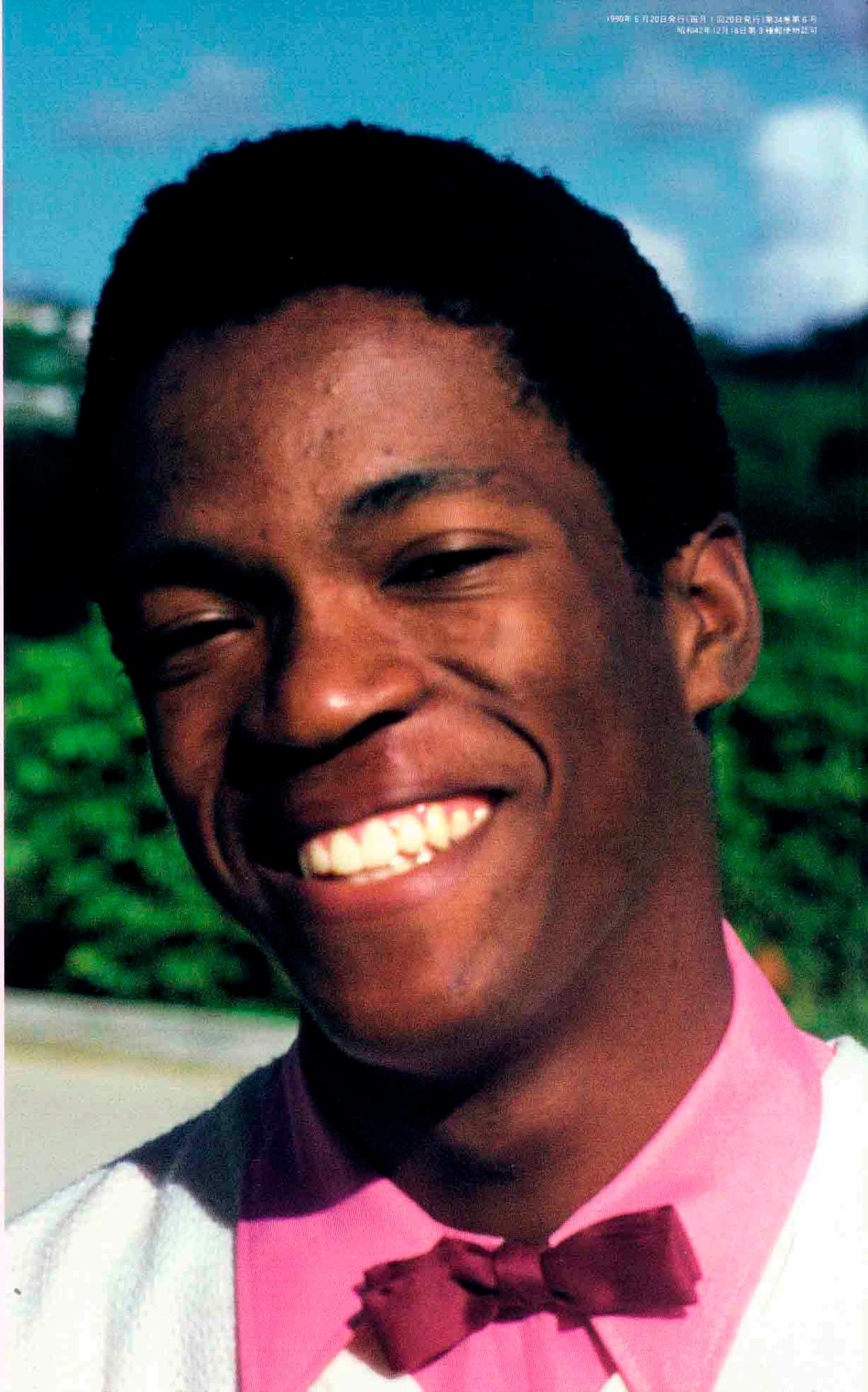


聖徒の道

6
1990



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1990年6月号



一般

2

大管長会メッセージ
常に祈りなさい
エズラ・タフト・ベンソン

8

1,000冊のモルモン経
トマス・M・ハドリー

10

「洪水」のおかげです
ランディー・スパーリング

14

寝たふりをして
リリー・スワニガン

16

結婚生活における
正しからざる支配
H・パーク・ピーターソン

29

ほかの人にはない魅力
リカルド・バティスタ

30

ポルノグラフィーとの戦い
R・ガレ・シャペロ

33

我が家で祝う親戚の誕生日
ジャニーン・ハンセン

46

置き忘れたモルモン経
クリフォード・E・コールマン

青少年

24

まあ、……！
コリーン・レイトン

34

「みんな大丈夫！」
ジャネット・トマス

40

次の15分間
ロバート・L・シンプソン

43

贈り物
アントニオ・コウリー

定期特別記事

1

読者からの便り

25

家庭訪問メッセージ
誓約を守ることにより
主を覚える

26

質疑応答
チームワークを築く
シェリー・ジョンソン

44

世界の聖徒たち

こども

2

船の建せつ

4

たんけん
開たく者時代の遊び
スーザン・デービス

6

主の家をきれいに
テビー・ムーア

8

分かち合いの時間
天への道
ローレル・ロールフィング

10

聖霊
アン・レムリン
ジャッキー・オーエン

12

ライラックのかおり
ドナ・カートライト

16

おもちゃばこ

読者からの便り

プエルトリコの宣教師

私は、3年前に、カリブ海に浮かぶプエルトリコ島でバプテスマを受けました。現在はテキサス州サンアントニオ伝道部の専任宣教師です。主が私を合衆国のラテン系の人々と働けるよう、ここに送ってくださったことに心から感謝しています。伝道はすべての人が経験すべきです。生涯のうちに2年間を福音を宣べ伝えるために捧げるとは、主に仕えるすばらしい方法であると感じています。神の王国がこの地上で広がるように、私たちの努力を結集する必要があります。

テキサス州サンアントニオ伝道部
ジョセ・トマス・レオン長老

希望の光景

私の父はジュアン・カストロ・デュークといい、チリ・オソルノ伝道部の伝道部長を務めています。ある晴れた暖かい土曜日の午後、父は私たちに、自分が施すように依頼を受けたバプテスマ会と一緒に来るように言いました。バプテスマを行なう湖までの道を車で向かう途中、雨が降り出しました。バプテスマ会に参加した人は皆びしょりぬれ、泥だらけになってしまいました。雨は儀式の間中、降り続けました。儀式が終わると、風はやわらかなそよ風になり、雨は小降りになり、湖面は静かになりました。それから、美しい虹が現われたのです。空はあいかわらず暗い雲で覆われていましたが、虹は輝いていました。

そのとき、私は理解したのです。バプテスマを受けてキリストの教会に加わるということは、どのような犠牲に

も勝って価値のあることなのです。そのような美しい奇跡を目の当たりにした後では、もはや悪天候やそのほかのささいなことに思いついたことなど何でもなくなってしまいました。あの日以来、私は天父の愛をもっと強く感じるようになりました。私は、あの平和と愛、希望の美しい光景を与えてくださったのが天父であったことを知っています。

チリ、オソルノ
キャロライナ・カストロ

宣教師の道具

私は「リアホナ」(ポルトガル語版)が大好きです。それは福音が真実であるという証が得られるように助けられると思えるからです。それに、私は「リアホナ」を通して教会幹部をより身近に感じることができます。

私は、教会の機関誌は祝福であり、伝道活動を支える大切な出版物であると考えています。掲載されている経験談から、偉大な救いの計画を通して主がその子供たちに示された愛が読み取れるからです。

ブラジル、サンパウロ
タニア・アパレシダ・モヤノ

すばらしい国

メキシコ国民であることを私は天父に心から感謝しています。メキシコに生まれ、この国で末日聖徒イエス・キリスト教会が絶えず成長する姿を目にすることができ、私は本当に幸福です。

自由意志を行使する機会、神を礼拝する権利、美しい神殿は、どれも皆天父にこう言うに足るものばかりです。

「天のお父様、この美しい国や国中に
あるすべてのものに感謝します。」

メキシコ、イダルゴ
サラ・メラ・ガルシア

モルモン経

私は世界中の兄弟姉妹にモルモン経
を読んでいただきたいと思います。モ
ルモン経の目的は、私たちが永遠の生
命を得、この世にあって成功を収め
られるように助けることなのです。

メキシコ、レフォルマ
セルギオ・サミュエル・ザヴァリタ

神殿の祝福

私の人生で最も大きな祝福のいくつ
かはメキシコシティの神殿に犠牲を
払って参入することからもたらされま
した。

以前、神殿訪問のためのバスの時間
を間違え、教会員が来たときには、バ
スはもう出てしまっていたことがあり
ました。私たちは祈り、その後のバス
に乗ることができました。多くの教会
員が400キロある道のりを立ったまま
で行かなければなりませんでしたが、
私たちは神権により祝福され、肉体的
に強められ、事なきを得ました。全員
そろって到着し、とても霊的な経験を
しました。

私は神殿参入に対して証を持ってい
ます。何であれ私が神殿に参入するの
を止めることはできません。神殿に参
入することによって霊性が高められる
ことを私は知っています。

メキシコ、ワハカ
フランシスコ・J・レイズ・ロドリゲス

聖徒の道

1990年6月号

本誌は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マツ

クスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、フランシス・M・ギボンズ、ジェフリー・R・ホルランド

編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイト

教会機関誌ディレクター：トマス・L・ピーターソン

編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集副主幹：デビット・ミッチェル
編集主幹補佐：アン・レムリン

編集主幹補佐/子どものページ：ディエーン・ウオーカー

アートディレクター：M・マサト・カワサキ

デザイナー：シェリー・クック
制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジェーン・アン・ケンプ、ティモシー・シェパード、スティーブ

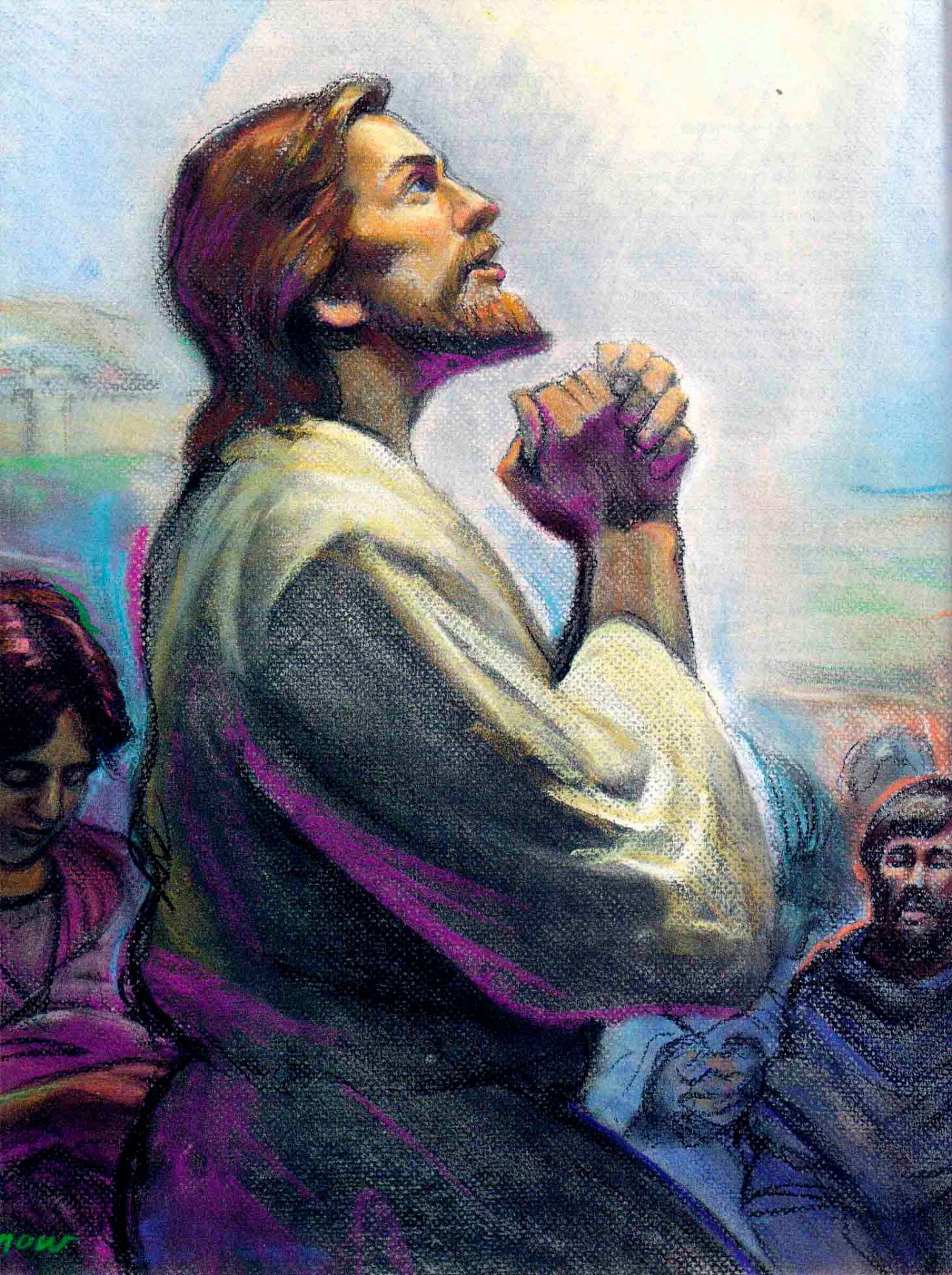
ン・デイトン
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1990年6月号第34巻第6号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine PBMA 9006JA
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1990 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.
●定期購読は、「聖徒の道」申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へ送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30 管理本部経理課 ☎03-440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito no Michi* is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito no Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



90W

常に祈りなさい

大管長

エズラ・タフト・ベンソン

イエスはこの地上でみ業に携わっておられたときに、次のように話して祈りのひとつのパターンを示してくださいました。「あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもゆるしてください。

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。」(マタイ 6 : 9-13)

また、後に「失望せずに常に祈る」よう(ルカ 18 : 1)教えられました。

主は言われました。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていない。」(マタイ 26 : 41)

「絶えず祈れ。さらば、われ
汝にわが『みたま』を注がん。
さらば汝の恩恵は大いなるべし。
すなわちその恩恵は、もし汝この世の宝(を)得たりとすともそれより大いならん。」(教義と聖約 19 : 38)

主はまたこの神権時代に次のように勧告しておられます。「汝らかの悪魔に征服せられて、今居る所より立ちのかされざる様常に祈るべし。」(教義と聖約93:49)

さらに救い主は、ジョセフ・スミスを通じて次のように宣言されました。「およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし、ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59:21)

その上に次のような教えも与えておられます。復活した主は西半球のニーファイ人にみ姿を現わされたとき、民に向かってこう言われました。「汝らは悪魔に誘いまどわされてそのとりことならぬよう、たえず目を覚まして祈らざるべからず。……

汝らは誘惑に負けざるよう、たえず目を覚まして祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。

されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。

而して、汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる。」(IIIニーファイ18:15, 18-20)

では、ここで天父との交わりを深めるにはどうすればよいか、そのための方法を5つほど提案したいと思います。

1. しばしば祈る 聖典に「朝も昼も晩も」(アルマ34:21)とあるように、毎日少なくとも2, 3回は天父と交わるひとりだけの時間を持つべきです。私たちは常に祈るように命じられています。(IIニーファイ32:9; 教義と聖約88:126参照)これは、「たえず心の中で主に祈れ」(アルマ34:27)ということです。

2. 黙想し祈ることのできる適当な場所を捜す 私たちは、「一人で部屋に居るときも、秘密の所に居るときも、また野に居るときも」(アルマ34:26)祈るよう勧告されています。これは、気を散らさないで「ひそかに」祈るといことです。(IIIニーファイ13:5-6参照)

3. 祈る用意をする 祈りたくないときには、祈りたくなるまで祈ってください。謙遜になる必要があります。(教義と聖約112:10参照)また赦しと憐れみを求め(アルマ34:17-18参照)、快く思っていない相手を赦さなければなりません。(マルコ11:25参照)しかし聖典には、「貧しい者や着る物のない者の願いをことわり、病んでいる者、あるいは悩んでいる者を見舞わず、持物があるながらその幾分を貧しい者に施さない」(アルマ34:28)ならば、私たちの祈りはむなしものになると警告されています。

4. 祈りは明確な目的を持ち、その言葉は的を射たも

のでなければならぬ 祈りのたびに同じ言葉を繰り返すことのないようにしてください。もし友人から毎日同じ言葉を聞かされ、自分との会話をどうでもよいつまらない仕事のように扱われたとしたらどのような気持ちがするでしょうか。話し終えた途端に、待ち切れないようにテレビをつけ、私たちのことをすぐに忘れてしまうような人に対してどのような気持ちを覚えるでしょうか。そのようなことをされれば、だれでも感情を害するのではないのでしょうか。

何のために祈るべきなのでしょう。私たちは自分の仕事について、また私たちに敵対するものや悪魔の力を防ぐことができるように祈る必要があります。さらに、自分のためと自分の周囲の人々のためを思って祈るべきです。(アルマ34:20, 22-25, 27参照)私たちは、自分の行なうすべての働きと決定について主のみこころを伺うべきであると教えられています。(アルマ37:36-37参照)また、自分に与えられたすべてのものについて感謝の気持ちを胸に満たし、すべてのことの中に神のみ手のあることを告白しなければなりません。(教義と聖約59:21参照)感謝しないことは、大きな罪のひとつだからです。

主は近代の啓示の中で、次のように語っておられます。「およそすべてを感謝して受くる者には栄光を与えられん。而して、この世のものもまた彼に加えられることすなわち百倍よりも多からん。」(教義と聖約78:19)

私たちは自分に必要なものを願い求めるべきであり、自分にとって害となるものを求めないようにしなければなりません。(ヤコブ4:3参照)私たちはもろもろの問題を克服できるように力を求める必要があります。(アルマ31:31-33参照)私たちはまた、大管長や教会幹部、ステーク部長、監督、定員会会長、ホームティーチャー、家族の一人一人、社会の指導者に靈感が与えられるよう、また彼らが幸福であるように祈らなければなりません。ほかにも祈ることはいろいろありますが、私たちは聖霊の助けによって、どう祈ったらよいかを知ることができます。(ローマ8:26参照)

5. 祈りを通して願い求めたあとは、その願いがかなえられるように努力しなければならない 私たちは耳を傾けなければなりません。私たちがひざまずいている間に、主は私たちに助言を与えたいと望んでおられるのではないのでしょうか。

「真心から祈るといことは、どのような徳や祝福を願い求めるときでも、その祝福を受けるために努力し、またその徳を養わなければならないということである。」(デビッド・O・マッケイ「信仰に忠実に」p.208)

これまでの人生を通じて、祈りに頼りなさいという勧



告は、私にとってほかのどのような助言よりも貴重なものでした。祈りは私にとって欠くことのできないものであり、頼みの綱であり、絶えざる力の源であり、また聖なる事柄に対する知識の基盤となるものです。

「どんなことをするときも、どこにいても、決してひとりではないことを覚えておきなさい。」これは私が少年のころ、父からよく聞いた忠告です。天父はいつも近くにおられます。祈りを捧げて手を伸ばせば、天父の助けが得られるのです。父のこの勧告は確かに真実でした。私は、その目に見えない力が得られることを神に感謝しています。その力なくして最善の働きができる人はだれもいません。

1922年、私は宣教師として北部イングランドで伝道に従事していましたが、当時この教会を批判する動きが非常に激しくなり始めていました。そのため、あるとき伝道部長は私たちに一切の街頭伝道をやめ、場合によってはチラシ配りもやめるように指示しました。

同僚と私はサウスシールズ^{せいしんかい}に行き、その聖餐会で話をするように招かれていました。手紙には次のように書かれていました。「小さな礼拝堂ではありますが、私たちはこの礼拝堂をいっぱいできると確信しております。この会堂に集う人々の多くは、私たちに関する虚偽の印刷物を信じていません。あなた方がおいでくださるならば、きっとすばらしい集会になると思います。」私たちはその招待に応じることにしました。

同僚と私はこの招きにこたえ、断食して心からの祈りを捧げました。同僚は福音の第一原則について話す予定でした。一方、私は背教について話すため、熱心に学んでいました。

集会はすばらしい雰囲気にも包まれていました。まず同僚が福音の第一原則について、靈感に満ちた説教をしました。次いで私は自由について話し始めました。このような経験は初めてのことでした。私は話し終えて席に着くと、背教についての話をしなかったことに気づきました。

た。私は、予言者ジョセフ・スミスについて話し、彼の聖なる使命とモルモン経が真実であることを証したのです。

集会が終わると、教会員でない人が数人私たちのところにやって来てこう言いました。「今夜私たちはモルモンイズムが真実であるという証を受けました。これでバプテスマを受ける準備ができました。」

この言葉は、私たちの断食と祈りに対する答えでした。なぜなら、私たちは求道者の心に触れることだけを話せるように祈っていたからです。

1946年、私はジョージ・アルバート・スミス大管長から、戦争で荒廃したヨーロッパへ行くように依頼を受けました。私の任務は、ノルウェーから南アフリカにかけての各地にこの教会の伝道部を再開し、福祉物資の配給プログラムを確立することでした。

私たちはロンドンに本部を設置し、それからヨーロッパ駐留軍と予備協定を結びました。私が一番先に面会を望んだのは、ドイツのフランクフルトに駐在していた米軍司令官でした。

同僚と私はフランクフルトに到着すると、司令官との面会の約束を取りつけようと司令部を訪ねました。ところが、係の人の返事はこうでした。「將軍には少なくともあと3日間はお会いになれません。將軍は多忙を極め、スケジュールは面会の約束でいっぱいですから。」

私は、「大切な要件でお会いしたいのです。明日はベルリンに行くことになっているのでそんなに待たせません」と話しました。

しかし、残念ながら要望にはこたえられないという返事でした。

私たちは建物を出て外の車に戻り、帽子を脱いで祈りを捧げました。それから再び建物の中に戻って行くと、今度は別の人が先の受付のところにおりました。そして15分もしないうちに私たちは將軍に面会することができたのです。

私たちは將軍に会って、彼の心を動かすことができるようにと祈っていました。どこから寄贈されるものであろうと、救援物資はすべて軍に託して配給するように命じられていたからです。私たちは將軍に、私たちの目的は自分たちの手で集めた物資を、自分たちの手で自分たちの民に配給することであると伝え、福祉プログラムとその運営方法について説明しました。

すると將軍はこう言いました。「いいでしょう。行ってあなた方の物資を集めなさい。救援物資が集まるまでには、方針が変わっているかもしれません。」

そこで私たちはこう言いました。「將軍、私たちの救援物資はすでに集まっています。集荷は常時行なわれてい

ます。ソルトレークシティの教会の大管長会に電報を打てば、24時間以内に物資を積んだ貨車がドイツに向けて出発することでしょう。私たちには日用品をいっぱい蓄えた倉庫がたくさんあるのです。」

そう話すと、將軍は「そのように先のことまで考えている人々がいるとは初耳です」と言いました。將軍は、私たちの祈りのおり心を動かされたのです。私たちは、自分たちの手で自分たちの民に配給してもよいという許可証を得て、將軍の事務所を後にしました。

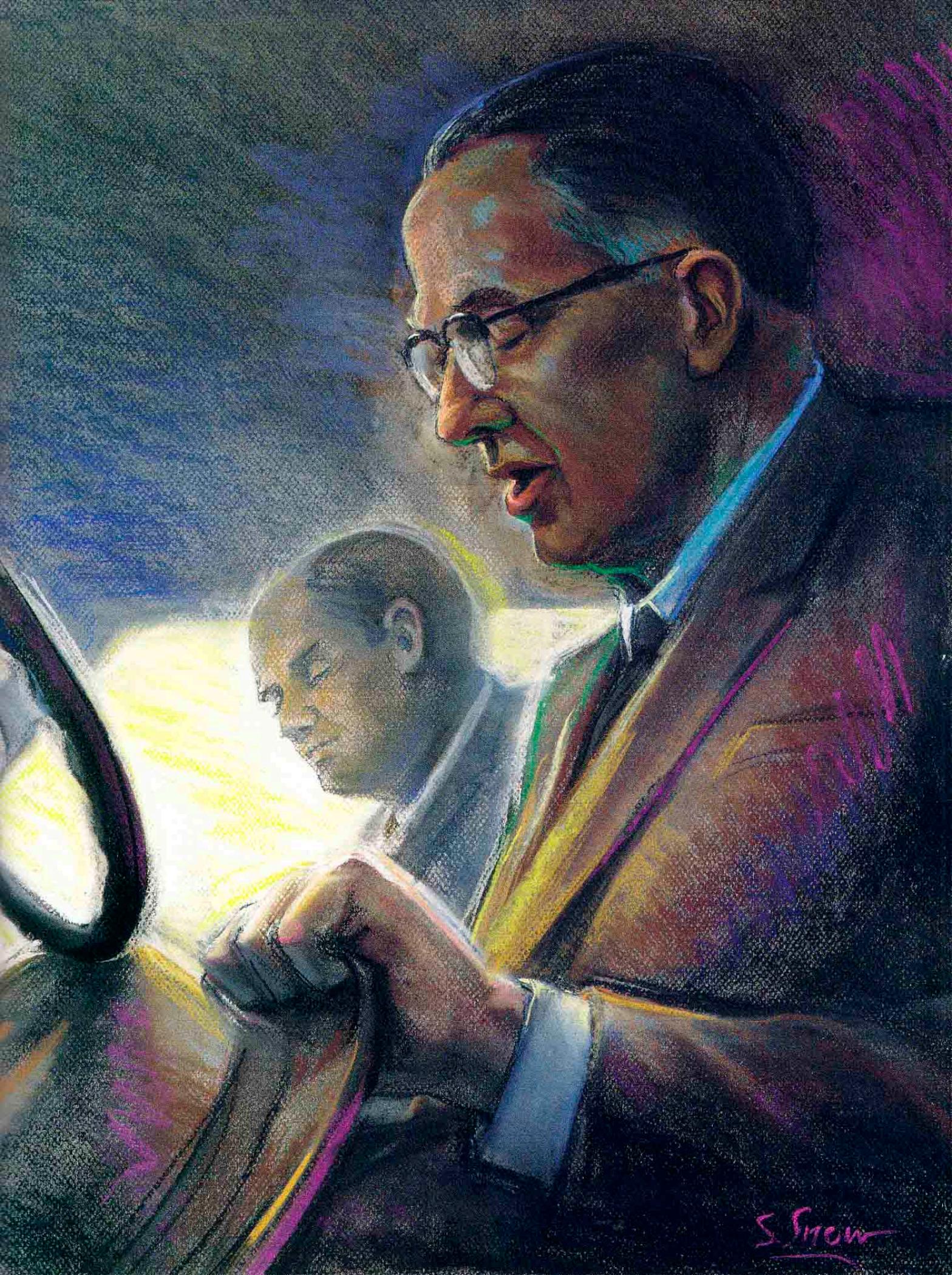
神は私たちのことを心にかけておられ、私たちが神により頼んで正義を行なうならばいつでもこたえてくださいます。これは私たちの心を喜びで満たしてくれます。全能の神を信頼し、謙遜な祈りを通して神の導きを求めることをいとわない人には何の恐れもありません。たとえ迫害が起こり、災難が来ようとも、私たちは祈ることによって安心感を得ることができます。神が私たちの心に平安をくださるからです。この平安、つまり平静な心は人生における最高の祝福です。

私がまだアロン神権者だったころ、祈りについてひとつの詩を教わったことがあります。それは今でも私の心に残っています。

どんな方法でかわかりませんが、
神は必ず祈りに答えてくださいます。
祈りをいつも聞いている
いつか必ず答えると、
神はそう言われました。
だから、私は祈り、静かに待ちます。
願いが望みどおりに答えられなくても、
私は神にゆだねます。
みこころには及ばないので。
神は私の願いをかなえてくださいます。
願い以上の祝福を与えてくださることもあるのです。
(エライザ・M・ヒコック「祈り」より)□

ホームティーチャーへの提案

1. 主は私たちに、何度も祈るようにと勧めておられる。
2. 祈りは明確な目的を持ち、的を射たものでなければならない。
3. 祈った事柄については、その祈りがかなえられるように、みずからの責任を果たさなければならない。
4. この記事の中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。



S. Snow

1,000冊のモルモン経

トマス・M・ハドリー

1948年の夏のことでした。デンマークのコルレンクにあるその家を同僚と共に訪れるのはもう7度目でした。それまではいつも、つえをついた小柄な婦人が戸口に出てチラシを受け取り、ほほえんで何も言わずにそっと戸を閉めるのでした。

私たちはその日、もし今回話ができなかつたらもう訪問はやめようと思っていました。そして、いつもと同じように断られるとばかり思っていた私たちは、彼女の主人が戸口に現われたのにびっくりしてしまいました。彼はマリヌス・モーエンセンといい、大変気さくな人でしたが、せんさく好きで、モルモンについてたくさん質問してきました。

同僚のヤング長老がモルモン経のことを話すと、彼は興味を示しました。そこで私たちはモルモン経を見せ、読むように勧めました。「喜んで読ませてもらいますよ。」モーエンセン氏は言いました。「私は本は何でも読みますから、モルモン経ももちろん読みます。2週間したらまた来てください。それまでに読んでおきますから。」

2週間して訪問すると、モーエンセン氏は96ページ読み進んでいて、すばらしい本だと言いました。「どの章も何度も繰り返し読みましたので、時間がかかってしまいました。」彼はそう説明しました。

「これは単なる作り話の本ではありませんね。一生かけて読む本ですよ。」彼はそう言うとモルモン経を読み進めることを約束し、私たちにまた訪問してくれるように言いました。

それから何週間か過ぎたある日、私たちは町で車を走らせているモーエンセン氏に会いました。手招きして話

したいと言うので彼の車の方に行くと、ドアを開けた彼は大きな声でこう言ったのです。「長老たち、あの本は真実です。私にはそれがわかりました。ちょうど読み終えたところですよ。1,000冊買いきましょう。」

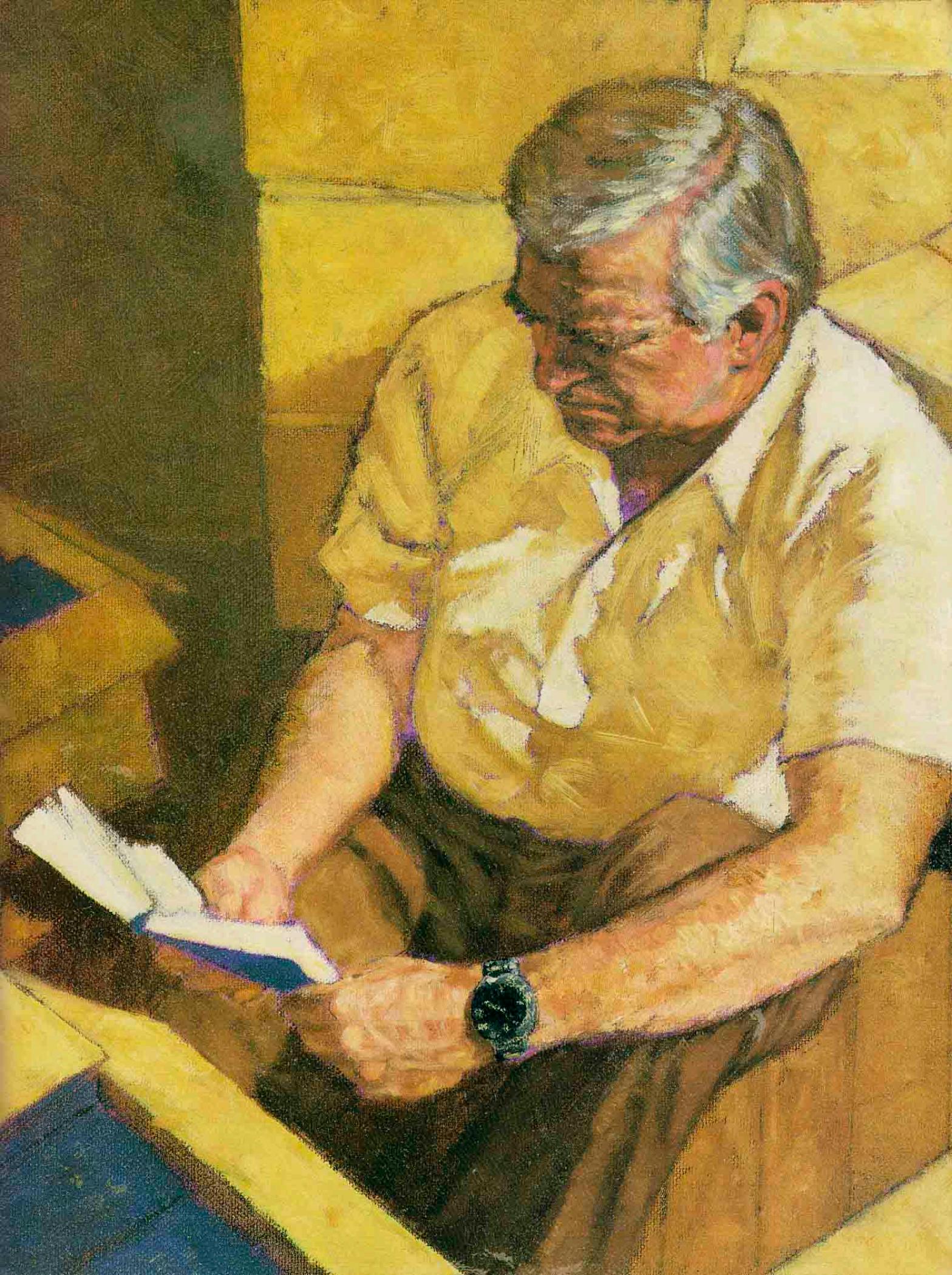
ヤング長老と私は目を丸くしました。モーエンセン氏は長い時間をかけてモルモン経を研究し、みたまの力によってそれが真実であることを知ったのです。彼はその本に収められている偉大なメッセージを、町の人に伝えたいと思いました。彼は伝道部長に手配を依頼するよう、私たちに頼んできました。

話を聞いた伝道部長は喜んで、早速モーエンセン氏と会い、モルモン経の配達の手配をしました。モーエンセン氏は家族と友人のために何冊か自分のもとの残し、あとはすべて興味のある求道者に貸せるように、宣教師に寄付してくれました。その結果大勢の人々の人生に祝福がもたらされたのです。

会員となったモーエンセン兄弟が後にヤング長老と私に打ち明けてくれたことですが、彼は私たちの訪れを受けるずっと前に、ひとりの青年が来てある本を読むように言う夢を見たのだそうです。夢の中で彼はその本を読み、幸福と喜びを得ました。彼はヤング長老を見て言いました。「ヤング長老、私が夢の中で見たのは、あなたです。」□

*トマス・M・ハドリー：ユタ州オグデン東ステーク部ハイランドワード部所属。

「どの章も何度も繰り返し読みました。これは単なる作り話の本ではありませんね。」こう語るマリヌス・モーエンセン兄弟は、祈ってモルモン経に対する証を得た。



「洪水」のおかげです

ランディー・スパーリング

親愛なるヒースご夫妻へ

私をご存じないと思いますが、私はご夫妻から大変大きな恩恵を受けた者です。おふたりが「モルモン経で洪水のごとく地を満たす」というベンソン大管長の勧告（訳者注―「聖徒の道」1989年2月号，pp.4―6）に従われたおかげで、私の生活は永遠に変わりました。と申しますのも、1988年8月に宣教師からいただいたモルモン経の表紙の裏に、おふたりの証が書かれてあったからです。「この本は何にも増してあなたの人生に大きな影響を与えるでしょう」とありました。8月のその日には、まさかこの言葉が現実になるとは、思いも及びませんでした。そのいきさつをお伝えしたいと思います。

私は名前をランディー・スパーリングといい、別の教会に通う家庭で育ち、熱心な信者でした。でも、だんだん自分の信念が揺らいできました。夫は1988年の2月にお金を全部持ち出し、たくさんの借金を残して家を出て行きました。私にとってたったひとつの救いは、毎週教会に行くことでした。自分には教会が必要だと感じました。でも週に1回集会に出席するだけでは、霊的に物足りない気持ちがしていました。

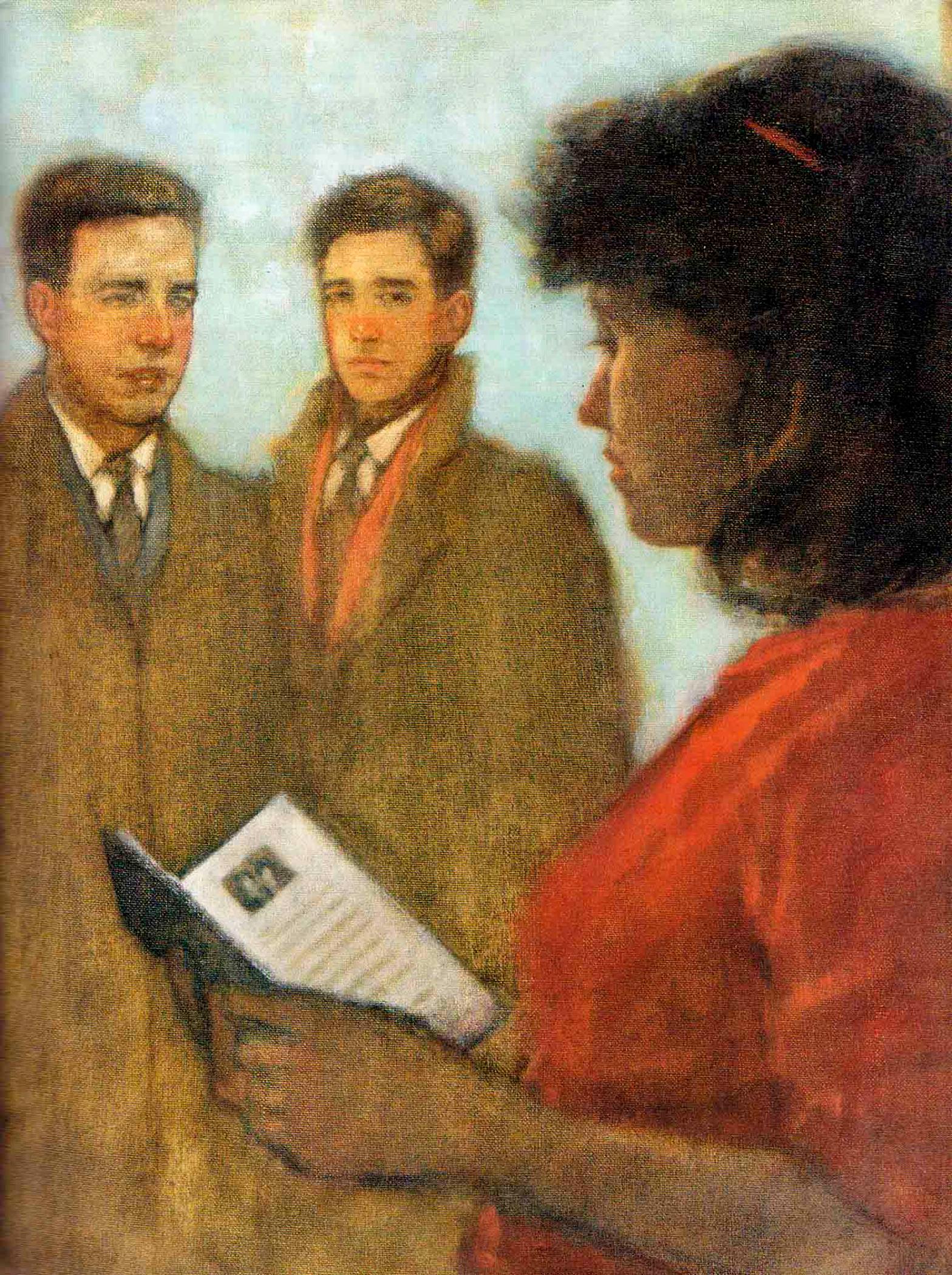
この苦しかった時期のある晩に、玄関でノックの音がしました。扉を開けると、のりのきいた白いワイシャツにダークスーツ姿の、清潔な印象を受けるふたりの青年が立っていました。末日聖徒イエス・キリスト教会の者で、よかったら話をしたいと言うのでした。私の近所に

住む良い友達のローリーがモルモンでしたので、ローリーの信じていることがもっと理解できるならと、それだけの理由でお話を聞くことにしました。

そのふたりの青年を見ていると、2、3カ月前にローリーと交わした会話が思い出されました。彼女から再婚を考えたことがあるかどうか、尋ねられたのです。私は「いいえ！」と言下に否定しました。なぜなら、私がいも再婚に踏み切るとしたら、その人はお酒を飲まず、たばこを吸わず、ほかの女性に心を移さず、教会に通って、正直で、汚い言葉を口にせず、物質的なことよりも家族を大切に人であってほしかったからです。「そんな男性なんていないわ」と私は彼女に言いました。「私なら、いつだってそういう男性を見つけられるわよ」とローリーは言いました。彼女の知っている男性のほとんどはそんな人たちばかりだと、笑顔で言ったのです。私はそれを笑って聞き流していました。

玄関に立つふたりの宣教師を見ていて、好奇心がわきました。それで、また訪問してくださいとお願いしました。

数日して、ウォーカー長老とマカリスト長老が最初のレッスンをしてくださり、それはすばらしいものでした。モルモン経をいただき、読んで祈ってくださいと言われました。ヒース兄弟姉妹、そのモルモン経におふたりの写真と証が載せられていたのです。私はその言葉にとても感動しました。



宣教師の2回目の訪問のとき、私はレッスンに抵抗を感じました。それまで抱いていた信仰が、どれも覆されるように感じたのです。たとえば、バプテスマについてどう思いますかと聞かれました。私はもうバプテスマは受けていますと答えました。バプテスマは全身を水に浸すことが必要だと説明されたとき、とんでもないと思ったのです。私たちはそのことについて、切りがないくらい話し合いました。そのときウォーカー長老から、ひざまずいて一緒に祈りませんか、穏やかに尋ねられました。私には、男の人がひざまずいて祈るなど、それも私のために祈ってくださるなど、思いも寄らないことでした。私たちはひざまずいて祈りました。

宣教師が話していったことについてよくよく考えると、気持ちが動揺しました。彼らの教えを信じるということは、自分の生活を変えなければならないということです。生活を変えたくはありませんでした。それまでの生活に満足していたからです。

そのとき、もうモルモン「書物」に触れず、宣教師の訪問もお断わりしようと思いました。ところがその晩、寝る前にみたまの力を感じて、私はモルモン経を開いて、もうこれ以上、眠くてまぶたを開けていられないという状態まで読みふけたのです。

眠りに落ちると、私はまったくの暗やみの中をさまよっていました。目に砂が入って見えなくなったように感じ、しきりに目をこすっていました。何とかして砂を取り除きたいと思いました。するときれいな水の池が見つかったので大喜びしました。私は池に飛び込んで、砂がすっかり洗い落とせるように、全身水に浸りました。そして水から上がると、まぶしいほどの光に囲まれました。ついにははっきり見えるようになったのです。本当に幸せな気持ちでした。

目を覚ますと、突然私は不安になりました。宣教師は正しかった。どうしたらいいのでしょうか。水に入るバプテスマが必要なことを信じますと、どうして今さら長老たちに言えるでしょう。私は自分が見た夢を宣教師に話さないでおこうと思いましたが、でも次のレッスンで彼らに会ったとき、みたまを受けて興奮したように私は夢の話をしていました。

引き続きレッスンが行なわれ、私はモルモン経が与えてくれる知識をもっと知りたいと心から思いました。幾晩も、疲れ果てるまで読みました。このような貴重な真理を載せた書物を読むには自分はふさわしくないと感じて、ただ本を手にして泣いたことが2度ありました。読んでいることが真実だとわかりましたが、それでも生活を変える決心がつかなかったのです。しかし愛の深い天父は、さらに学ぶ機会をお与えくださいました。

たとえば、ローリーと一緒に教会の集会や活動に参加しました。年に1度の女性の大会の放送で予言者の言葉

を聞き、ファイヤサイドで教義と聖約を勉強し、扶助協会のホームメイキング集会に出席しました。モルモン経にもなじんできて、話や記事の中に引用される聖句がわかるようになりました。

教会の集会や活動で会う人たちと仲良くなって、宣教師とも一層親しくなりました。でも、怖かったのです。自分の「古い」生活から抜け出すことを恐れていました。私はモルモンの人々やその信仰にこれ以上かかわらないうちに、今こそ逃げ出さなければと自分に言い聞かせました。

6回目の最後のレッスンが終わったとき、私はほっとしました。さあこれで元の生活に戻って、かかわりたくないことについて悩まなくてよくなります。ところが、私は宣教師や教会員たちを見くびっていました。彼らは、毎日自分の宗教の原則に従って生きている人たちだったのです。その秘密は何だったのでしょうか。

私はその答えを、11月にバプテスマ会に招かれたときに知りました。会は何事もなく過ぎていたのですが、やがてマカリスト長老が青年にバプテスマを施すためにフォントに入ったときです。私の目に涙があふれてきました。私はみたまに感動して、どの教会に属すべきかを疑いなく心にはっきりと悟ったのです。

2週間後に、宣教師からソルトレークシティのテンプルスクウェアで行なわれるクリスマスプログラムに誘われました。私はそれを見物しながら、これからの自分は、モルモン経を神のみ言葉と信じて読む「非教会員」、あるいは末日聖徒の生活が一番キリストに近いと確信している「非教会員」としては、生きていくことができないと知りました。周りを見回すと、静かな細い声が、「この人たちはあなたと同じ民です。彼らのもとに行きなさい」と告げました。

翌日、私は宣教師と連絡を取りました。バプテスマの日取りを決めたいと話しました。そのときの彼らの喜びの声をテープに残しておけたらよかったですと思います。私は永遠にその声を忘れないでしょう。

1988年12月11日、私はバプテスマを受けました。

宣教師に、また出会った教会員たちに感謝しています。そして、見知らぬ私に証を載せた貴重なモルモン経を贈ってくださったヒース兄弟姉妹に感謝します。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、「私は地がモルモン経で満たされる有様も心に思い描いています」（「聖徒の道」1989年2月号、p. 6）と言われました。私のところにも洪水が押し寄せてきたことを感謝しています。私はおぼれるどころか、それによって引き上げられました。現在は、今までになく充実した日々を送っております。

キリストの教会に加わった姉妹、
ランディー・スパーリング



教会員への チャレンジ

『『モルモン経寄贈プログラム—家族から家族へ』に積極的に参加し、モルモン経に自分たちの写真や証の言葉を入れてくださった教会員の方々は賞賛に値します。これらの……本は宣教師の手を経て全世界の人々に渡され、毎年、多くの人々の改宗に役立っています。

(すべての)教会員の皆さん、どうかモルモン経寄贈プログラムに積極的に参加してください。皆さんの代わりとして、モルモン経を伝道のために送り出してください。私たちは、毎月何百万冊ものモルモン経を宣教師に送るようにしなければなりません。

私たちにはごく短い時間のうちに果たすべき大いなる業があります。私たちはモルモン経で洪水のように地を満たさなければなりません。」

大管長

エズラ・タフト・ベンソン

寝たふりをして

リリー・スワニガン
(アニー・スミスの採録による)

私の気持ちを思いやってくれない家族にうんざりしながら、私は横になっていました。あの若い連中が家に来て神の話をするのは嫌だと家族に言っておいたのです。私は宗教は大嫌い。神なんてどうでもいいと思っていました。33歳のときに襲われた多発性硬化症と、それから数年後、私が最も必要としていたときに父がこの世を去ってしまったことは、すべて神のせいだと思っていました。

そのふたりの青年が宗教について家族に話したいと言ったとき、私はかかわりあいたくないと思いました。でも、部屋を出ることができないので、彼らがモルモン経と呼ぶ本とキリストについて話している間、寝たふりをしていました。話を終えると、ひとりが祈りました。それから母がまた何日かしたら来てもいいと言いました。私は彼らが帰るや否や、宗教などとかかわりあいたくないことを母に告げ、家族でそんなばかげた話を聞こうというのなら、自分は顔を合わせたくないから寝室にいると言いました。

それから3日後、宣教師たちはまたやって来ました。意に反して、私は居間のいすに座らされました。そこで私はまた寝たふりをしました。宣教師が入ってきて、祈りをもって始めたいと言い、それからレッスンが始まり



ました。ところが彼らの話す言葉が、どう抵抗しても、うらみに満ちた私の心の中に入り込んで来るのです。彼らは私たちがどこから来て、なぜこの世にいて、また死んだらどうなるのか、死んでからどこに行くのかを話しました。また3つの王国のことも話しました。それは生まれてこのかた耳にしてきた天国と地獄という概念とは異なったものでした。

話は、始めから終わりまで心引かれるものでした。それに納得のいくもので、彼らの言っていることは正しいとわかりました。うらみの気持ちに満ちた私でしたが、正しいか誤りか、真理か偽りかの区別はできました。

私は目を開けて質問しました。一つ一つの質問に彼らは答えてくれました。そのたびに生命と死について教える宣教師の顔は輝いているように見えたのです。そこで私はそれまで宗教について抱いていたあらゆる疑問を彼らにぶつけました。

席を立つときに、彼らは私のひざにモルモン経を置きました。たまらなく読みたかったのですが、硬化症で視力が弱くなっていたので、めいが時間を見つけて読んでくれるのを待たなければなりませんでした。

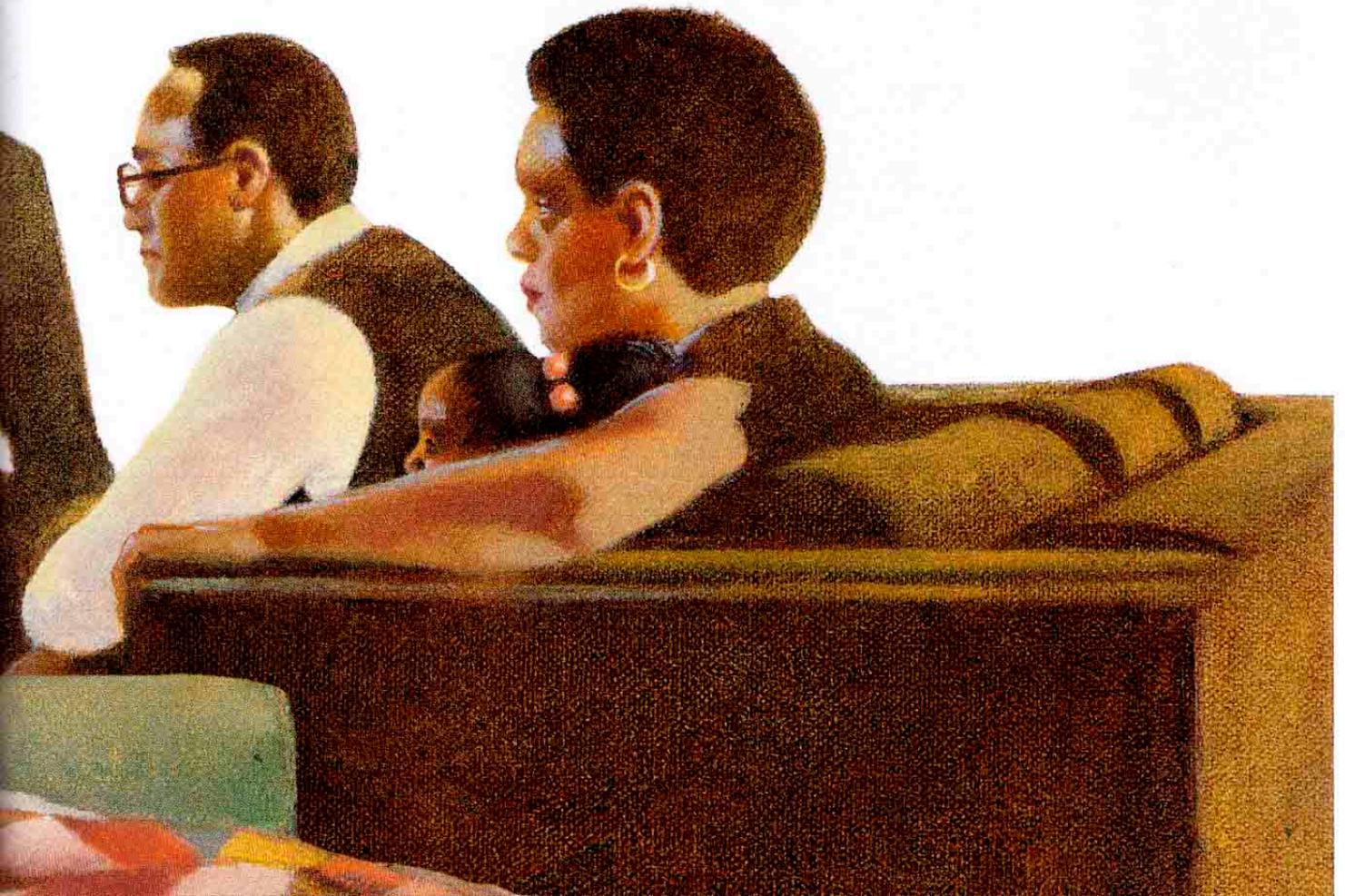
それから数日して宣教師が訪問してきました。それまで読んだ内容は胸躍するようなものでしたが、ひとつ大き

な問題がありました。宣教師は白人でしたが、もし教会員全部が白人だったら、黒人が教会に入ることをどう思うだろうかと考えたのです。しかし、宣教師は、この教会はキリストの教会だからあらゆる人を歓迎していると答えました。そして黒人の家族が3家族、ワード部で活躍していることを聞いた私は、バプテスマを受けるのが待ち切れなくなりました。

バプテスマから1年後、忠実なワード部の会員の方々の度重なる祈りと並々ならぬ努力のおかげで、私はアトランタ神殿でエンダウメントを受けることができました。医師たちからは5時間の旅は無理だと言われたのですが、私にとってそれはどうもしなければならない旅でした。

11年前、硬化症の診察をした医師は、あと2年の命だと言いました。でも今、私は首から下がすべてまひしていますが、それでも生きています。そして今私には福音があります。病気にかかったことや、父を失うという境遇に対するうらみはもう消えました。そして、終わりまで忠実に耐え忍ぶ者に神が約束してくださった永遠の生命を、待ち望んでいるのです。□

*リリー・スワニガンとアニー・スミスはアラバマ州ベセナーステーキ部コロンバソード部に集っている。





結婚生活における 正しからざる支配

七十人第一委員会会員
H・パーク・ピーターソン

これは深刻で増大しつつある問題を認識し、克服するための方法です。この問題はあなたの中にもあることでしょう。

家庭で、情緒的、肉体的に不当な扱いを受けたという訴えが、誠実な妻や子供たちから教会幹部の元へ手紙や電話でますますたくさん寄せられるようになってきています。助けを求める彼らの叫びを聞くのは胸が張り裂ける思いです。しかも、その訴えと祈りは、絶え間なく続いているのです。夫や父親であり、神権を受けている人々でさえもが、社会のいかなる場所でも受け入れられないような行動を家庭の中であまりにも頻繁ひんぱんにとっているのは悲劇です。これらの正しからざる

行動により、数知れぬ人の心が傷つき、生活が破壊されているのです。

正しからざる支配は、いろいろな形をとって表われます。批判や怒り、強度の欲求不満はまだよい方だと言えましょう。ところが極端な場合には、正しからざる支配は、言葉や腕力で相手の心や体を傷つけるところまで発展しているようです。不幸なことに、あまり目立たない場合には、黙認されるかあるいは「正しからざる支配」として認識されていません。この記事の目的は、世の夫と父親およびその家族に、

私たちの社会に広がりつつあるこの重大な問題を認めていただくことです。たとえ小さなことであっても不当な行ないをそのまま放置しておくなら、おそらくはさらに大きな問題へと発展するでしょう。目立たないうちに不当な行為を認め、正していくことによってそれを防ぐことができます。

もちろん、正しからざる支配とは、男性だけに対するチャレンジではありません。男性でも女性でも、だれであれ何らかの意味で指導的な立場にある人は、正しからざる支配という罪を犯

す可能性があるのです。既婚か独身か、親であるか否かにかかわらず、女性も男性も以下の原則を学び、活用するとよいでしょう。助けを必要とする読者の方々が信仰と望みを持って読むとき、これらの洞察と提案が、その心に深く根を張るようにと願っています。

正しからざる支配の実例

ある妻はこう書いています。「私の愛する夫はとても働き者で、私に物質的な面で何ひとつ不自由させたくないと望んでいます。実際、夫は起きているすべての時間をこの望みを遂げるために捧げているようなもので、休むのは眠るときと食事をするとき、それと日曜日に教会に出席するときだけです。」

彼女が言わんとしているのは、物質的な物はわずかでもよいから、もっとふたりで共に時間を過ごし、自分に関心を払ってほしいということです。夫は家族に何不自由なく生活させたいという思いがあまりにも強いため、しばしば、家族にも完全さを要求することになります。そして自分の要求が満たされていないと感ずると、非難をあらわにするのです。妻は、続けてこのように述べています。

「このような夫のもとで生活することは、女性にとって、きわめて孤独な苦闘の人生を送ることになってしまいます。なぜなら、もし助けを求めて他人のところに行けば、ほとんどの場合、自分の態度を変えるように、自分の夫をもっと愛するように、そしてうまくやっていくためには進んで妥協もするようと言われるのです。そして、常に自分の失敗をあげつらわれ、夫の期待どおりに生活していないことばかりを指摘されて、本来あるべき生活をし

ていれば夫に対して持てるはずの情熱も希望も夢もあきらめてしまうのです。どんなに努力しても夫を喜ばすことができないとしたら、天父に期待されるとおりの女性になれると感ずることが一体どうしてできるのでしょうか。」

もうひとりの姉妹は次のような電話をかけてきました。彼女の夫は定期的にポルノ雑誌を買い、毎晩ポルノビデオや映画を見、彼女の心情を傷つけるような無礼な要求をするというのです。この罪深い行為にもかかわらず、妻から苦痛に満ちた電話があるまでは、神権指導者にも秘密にされていたのです。この男性は神殿でも奉仕していました。

ある姉妹は、次のように多くの女性の関心事を代弁しています。「私たちには支えが必要なんです。それに、特に神権者の理解を必要としているときには、自分の特別な関心事を差し置いて喜んで手を差し伸べてもらいたいです。」

彼女の言葉は、結婚していても夫がいないも同然の女性や、一緒に生活してはいても父親と話したこともないような子供たちが置かれている苦しい状況をはっきりと表わしています。これらの夫や父親たちは、自分の家族よりもほかのことを大切にしているのです。仕事が忙しすぎるという人もいるでしょう。スポーツやテレビに熱中している人もいるでしょう。あるいは家族とのコミュニケーションを持ちたがらない人もいるかもしれません。中には「勤勉な」教会の会員や、指導者の立場にいる人さえいるかもしれません。そして「主の業を行なう」との名目で教会にいる時間を延長し、家庭生活の問題から逃避しているのです。

このような正しからざる支配の実例を見ると、次のようなキンボール大管長の教えの大切さが改めて思い起こされます。「男性は女性を十分に尊敬し

ないことがよくあります。私たち男性の中には、女性に対して当然持つべき配慮と思いやりを欠ける者がいるために、末日聖徒の女性にも困っている人がいるのではないかと思うことがあります。私たちの食料庫は食物で満ちているかもしれませんが、姉妹たちは愛情を注がれ、認めてもらうことに飢えていることがあるのです。」(エドワード・L・キンボール編「スペンサー・W・キンボールの教え」p.317)

正しからざる支配の例をもうひとつあげましょう。父親は自分勝手に決めた規則に従うよう家族に要求する場合があります。これは福音に基づいた指導の精神に反します。実際には、妻や子供たちと話し合っただけで規則を定めてこそ父親の指導力はすばらしい力を発揮するものなのです。

独裁的な指導は別の形でも表われます。ある家族は家庭の夕べのたびごとに起こる論争とけんかのために落胆し、ついに家庭の夕べを開くのをやめてしまいました。この父親は、家族の行ないを正すのが自分の責任だという良心的な思いからか、愚かにも家庭の夕べの時間の大部分を、家族のあら捜しや父親の目から見た間違いを言い立てることに費やしていました。家族が達成したり、完成した事柄を認めることはほとんどありませんでした。子供たちをほめようといくらか努力をしたのですが、それは否定的な言葉の償いにはなりませんでした。

夫は家庭を管理する

神権の指導に関して、ジョン・A・ウィットソー長老はこう語っています。「神権は常に秩序を守るために管理するものです。皆さんの中には、あるいは補助組織の女性の中には、管理して



いる男性よりも賢い方がたくさんいることでしょう。またはるかに優れた知力と、天性の指導力に恵まれているかもしれません。しかしそれは問題ではありません。神権は、知力があるからといって賦与されるものではなく、善良な男性に与えられるものです。そして教会の指導者を通して神から賦与された権能により行使されるのです。女性も同等に重要な賜が与えられています。そしてそれは単純で弱い者にも、また偉大で強い者にも同様に与えられているのです。」(「神権と教会政体」p.90)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、この関係はそのまま家庭にも当てはまると教えています。「男性の方が女性より優れているとする教えは福音のどこにもない。主は男性に神権の権能を与えて、主のみ業を行なうように遣わされた。女性の受ける召しは異なった性質の仕事をするのである。すべての召しのうち最も高貴な、気高い召しは、人の母となる女性の召しである。女性は神権を持たないが、忠実でかつ真実であれば、神の王国において女祭司となり、女王となるであろう。これは彼女たちに権能が与えられることを示唆している。女性は夫と共に神権を持っているわけではないが、神権からもたされる祝福を刈り取ることができる。」(「救いの教義」3:158。下線付加)

しかし、私たちが今論じている原則は、夫が神権を有していない家庭にも適用されます。キンボール大管長は次のように説明しています。「夫は結婚生活を管理します。初めに神が男と女とを創造されたとき、神は女にこのように言われました。『あなたは夫を慕い、彼はあなたを治める〔私は管理するという言葉が好きです〕であろう。』(創世3:16)」(「スペンサー・W・キ

ンボールの教え」p.316)この点については、キンボール大管長の伝記に記された次の献呈の言葉は興味深いものです。「私のパートナー、カミラ・アイリング・キンボールへ捧ぐ」(エドワード・L・キンボール、アンドリュー・E・キンボール Jr.「スペンサー・W・キンボール」参照)天の規律においては、夫が家庭にあって管理する権能を有しています。これについては議論の余地はありません。しかしながら、どのように管理するかについて、必要であれば検討したり改善したりすることができます。

夫は、家族の長としての役割のゆえに、家族に完全さを要求したり、妻のなすべきことを独裁的に決める権利を有するものと思いがちがあります。しかし、正義に基づいて治められる家庭においては、男性と女性の関係は対等であるべきです。夫は命令をすべきではありません。むしろ、双方の合意が得られるまで、妻と共に話し合うべきです。

男性は、妻や子供が成長するように感化しようとするなら、それは愛と賞賛、そして忍耐を通してしか達成できないことを理解しなければなりません。暴力や強制によっては決して成し得ないのです。

多くの女性は、子育てや様々な家事の務めなど大きな重荷を負っています。自分に課せられたすべての要求をバランスよく果たすのは奇跡に近い業のように思えることもあります。妻が行なったことに感謝するのではなく、行なわなかったことを非難し責める夫は、言わば落胆を育てているようなものです。しかし、もし夫がひと言でも妻をほめたり、少しでも手を貸したりするなら、妻がさらに熱心に自分の役割を果たそうと努めるのに気づくでしょう。批判は、伴侶に対する愛と関心を損なう、

よくない結果を生み出します。妻は夫からの愛情、思いやり、情緒的な支えを必要としているのです。

パウロは、「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい」(エペソ5:25)と諭しています。この勧告について、キンボール大管長は次のような大切な教えを述べています。

「キリストが教会をどのように愛されたか想像できるだろうか。教会のささいな出来事一つ一つを大切に、わずかな成長にも、また教会員一人一人にも心を配られた。持てる限りの力と関心を彼らの上に注がれた。そして、ご自身の命を捧げられた。これ以上のものを何か与えることができるだろうか。……

夫にこのような態度で家族と接する備えができていれば、妻ばかりでなく、子供たちも、彼の愛と模範的な指導にこたえるであろう。自然にそうなるのであって、強要する必要はなくなるであろう。確かに、もし父親が尊敬されたいと思うなら、尊敬されるに値する人物にならなければならない。もし愛されたいと思うなら、常に変わらず誠実で、愛に満ち、理解を示し、親切でなければならない。そして、受けている神権を尊ばなければならない。」(教会教育部「模範の人」p.5)

神権の権威と権能

神権の権威と神権の権能の間には明確な違いがあることを理解していない兄弟がいます。このふたつは必ずしも同じ事柄ではありません。神権の権威は、ふさわしい権威を有する人のあんしゆにより与えられるものです。しかし、主からの啓示によれば、神権の権能とは正しい生活を通してのみもたらされ

るものなのです。

聖典の中にはこのように教えられています。

「神権の権能は天の能力と固く結びつき離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり……。

この権能のわれらに与えられる事もあらんは真実なり。されども己が罪を蔽いかくさんとし、われらの高慢、空しき野望を充たさんと企て、または幾分にて正しからざることによりて人の子らを支配し、統御し、強制せんとする時は、見よ諸天は退き去り、主の『みたま』悲しむ。主の『みたま』退き去らば、神権またはその人の権威は終りなり。」(教義と聖約121:36-37)

この天よりの力とは、祝福を与え、強め、癒し、慰めを与え、家庭に平安をもたらす力なのです。人を向上させ勇気づけるのも神権の力です。この力を発揮する方法を学ぶ人には、教義と聖約132章20-21節に記された次の約束が与えられています。

「それより、彼らは神々となるべし。彼らは終りなければなり。されば彼らは続く故に永遠より永遠に至るべし。それより彼らはすべてのものの上であらん。すべてのもの彼らに従えばなり。それより、彼らは神々とならん。彼らはすべての権能を有し、諸天使彼らに従えばなり。誠にまことにわれ汝らに告ぐ、汝らわが律法を守るにあらざればこの光栄に達するを得ず。」

これらの節で述べられている「律法」に本来備わっているのは正しい支配の原則です。教義と聖約121章41-42節の中で主が述べておられる力ある人について考えてみてください。この記述は、特に神権に対するものですが、権威を持つ人ならだれでも、とりわけ、夫や父親は、これらの原則に従うとよ

いでしょう。

力ある人とは、次のような方法で管理する人です。

■説教により 命令口調で話したり、威圧的な行動をとったりしません。また他人を自分の思いどおりに動かそうともしません。人々がみずから進んで良い行動をするように働きかけ、老若男女の区別なくすべての人の尊厳と自由意志を尊重します。

■堅忍により 必要なときには待ちます。そして最も身分の低い者や幼い者の言葉にも耳を傾けます。他人の考えに対して寛容であり、すぐに人を決めつけたり、怒りを表わしたりしません。

■柔和により じかめ面よりも笑顔をよく見せます。乱暴な声や怒鳴り声をあげません。怒りにまかせて人を正そうともしません。

■温情により 自分を誇らず、自分の意見ばかり主張することはありません。そして自分の意志を神のみこころに合わせるように進んで努めます。

■偽らざる愛により うわべを飾りません。いつも誠実で、好感のもてない人に対しても惜しみなく真心からの愛を与えます。

■親切により ささいなことであっても、重大なことに対するのと同様の丁寧さ、思慮深さを示します。

■浄き知識により 半面だけの真理を避け、全面的に確信のできる真理を求めます。

■偽善を用いずに 自分が教えることを実行します。自分が常に正しいとは限らないことをわきまえ、自分の誤りを進んで認め、素直に謝ります。

■奸智を用いずに 相手に対して下心を持ったり、ずるいことをしたりしません。正直で誠実に自分の思いを伝えます。

誤解されたり誤用されたり している聖句

正しからざる支配の罪を犯している人々は、聖典の教えを誤って解釈していることがよくあります。たとえば、マタイ10章37節を考えてみてください。「わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。」

心得違いをしている父親や母親は、この聖句を使って自分たちが家族を顧みない言い訳にしています。聖句の意味を誤解し、自分たちが非常に多くの時間を教会活動に費やすことを正当化するためにこの教えを使うのです。多くの場合、彼らが教会活動を行なう第一の動機は、教会の召しを立派に果たすことにより、賞賛と関心を得たいからにほかなりません。家庭で、家族の必要に応じることは(これはときには教会の責任とかち合うことがあります)あまり人の注目を浴びることではありませんし、ましてや、他人からの賞賛を受けることもずっと少ないのです。

もちろん、監督やステーク部長などの指導者は、召しと責任を喜んで受け入れてくれる会員に感謝しています。これは当然のことです。不幸にも、指導者の中には、教会の集まりに出席したり特別な責任を直ちに果たしたりせずに、家族の義務を先に果たそうとする会員たちに対して、いくらか軽べつを表わすという過ちを犯す人がいます。このような指導者は、ふたつの正しい行ないの間で賢明な選択をするという能力に関して、会員たちをほとんど信頼していないことになります。時折、これらの指導者は、家族の緊急な必要を満たす方を選んだ会員に、罪の意識を抱かせます。このようなことは間違っており、あってはならないことです。



もうひとつよく誤解され誤用されている聖句は教義と聖約121章43節です。「聖霊に感動しては機おりに臨みて激しく人を責むしか。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。」おそらく、私たちは、激しく人を責むとはどう意味か、よく考えなければいけないでしょう。激しく人を責むとは、明瞭で確固たる態度を示しながら、愛情を込めて、またまじめな意図を持って人を責めることです。決して皮肉を込め、辛らつな調子で、感情をむき出しにして大声で責めることではありません。主が示されたように、人を責めるのではなく行為を責めなくてはなりません。人を攻撃したり、辱めたり、おとしめたりしてはならないのです。

相手の間違いを正すことが必要なときには、ほとんどの場合、人前で注意するよりも、個人的に注意する方が効果的です。監督はワード部全体を懲戒しなければならぬ場合を除き、全員を叱責するよりも個人的に話した方が良いのです。同様に、子供や伴侶も、失敗については個人的に叱責される権利を持っています。人前でしかることは残酷であることが多く、少なくとも正しい指導とは言えません。

ブリガム・ヤングは正しい訓戒を行なうことを可能にするための鍵かぎを私たちに与えています。

「もしあなたが、人を懲らしめるように召されたなら、あなたが慰め癒せる限界を越えて懲らしめてはならない。……あなたが、懲らしめの鞭むちを手を持っているなら、それを正しく用いる知恵を神に求めなさい。人を滅ぼすためではなく、救うために用いることができるように。」(「説教集」9：124-25)

夫や父親は、自分が正しからざる支配をしようとしてはいないかどうかを確かめるために、次のように自問して

みてください。

1. 私は家族をほめるよりも批判ばかりしていないだろうか。
2. 私は自分が父親や夫であり、神権を有しているからと言って、私に従うべきだと家族に強要していないだろうか。
3. 私は家庭よりも、仕事場などに幸福を求めているだろうか。
4. 私の子供たちは自分の感情や関心事を私に話したがるだろうか。
5. 私は自分の權威を保つのに、体罰を用いようとしていないだろうか。
6. 私は家族を支配するためにたくさんの規則を作り、強要していないだろうか。
7. 私の家族は私を恐れていないだろうか。
8. 私は家族としての決定をする際、皆で責任をもって決定するというちゅうちよことに躊躇ちゅうちよしていないだろうか。
9. 私の妻はあまりにも私に頼り過ぎ、自分で決定ができないようになってしまっていないだろうか。
10. 私がすべてのお金を管理しているため、妻は家事を切り盛りするのがむずかしいと不満を言っていないだろうか。
11. 私は自分が家族一人一人のために靈感を受けていると主張して、子供たちに聖霊のささやきに耳を傾けるよう教えることをおろそかにしていないだろうか。
12. 私は、家族に対して、批判し、怒ったりすることがよくあるのではないだろうか。

もし上記の質問のいずれかに対して心当たりのある人は、家族とのかかわりについて考え直す必要があるでしょう。

神権を持つ者にとって、家族の生活を支配しようとしているかどうかは、自分が主とどのような関係を持ってい

るかを調べてみると一番よくわかります。もし、聖霊の導きが少なくなったとか、聖霊が遠ざかっていくのを感じるなら(論争や不一致あるいは反抗によりはっきり表われてきます)、正しからざる支配を行なっていると言えるでしょう。不幸なことに、あまりに多くの男性が、正しからざる支配に関する主の勧告を理解せず、注意を払っていないために、天の祝福から遠ざかっています。しかし、自分自身を訓練し、權威を正しく用いる方法を習得し「絶えず徳もつを以て……想おもひを飾る」人々に、主は次のように約束しておられます。「然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露こつの如くごとに汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏しやくは真理と正義の変ることなき笏しやくとなり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらることなく永遠に汝に流れ込まん。」(教義と聖約121：45-46)

それはなんと栄えある日となることでしょうか。□

まあ、……！

コリーン・レイトン

まあ、いやだわ！ 教室内のほかの物はみな視界から消え、その単語が、まるで紙面から私の目の前に飛び出してきたようでした。優秀で厳格なスピーチの先生が、クラスに台本を配り、読む箇所を割り当てたところでした。私は最初のページにざっと目を通すと、はっとしました。その単語が目に入ったからです。

コニーが台本のその行を読むように割り当てられていました。クラスのほかの人ならほとんど例外なく、気にも留めずにあの冒瀆的な単語ぼつとくを読むことができたでしょう。でも、私はコニーの人柄を知っています。コニーは生活のあらゆる面で、高い標準を掲げ、妥協することなくそれらの標準を誠実に守っていました。そして清らかで生き生きとしていて、幸福そのものでした。清い思い

と言葉は、彼女の標準でした。ところが、今急に彼女は、このような言葉を少しも悪いと思っていない先生によって、その標準を汚されようとしているのでした。その台本は、すでに声高く読まれていました。私は彼女がどうするか、心配でした。さあ、コニーの読む番です。

ところが、彼女はせりふをすり替えて読みました。びっくりした教室の生徒からは、屈託のない笑いがわき起りました。先生は、びっくりした表情で彼女の顔を見上げ、ちょっとの間コニーを観察していました。そしてコニーが単に皆の注意を引いたり、ふざけたりしたわけではないのを理解すると、穏やかにほほえみました。しかしコニーは、まるで何事もなかったかのように、割り当てられた箇所を淡々と読み続けました。□



誓約を守ることにより主を覚える

目的一「汝のなしたる誓約を固く守るべし。」(教義と聖約25:13)

世界中の多くの末日聖徒は、家、学校、職場を離れて伝道に出たり、神殿でほかの人々、特に亡くなった先祖のために奉仕をしたりしています。また、家族に正しい生活をするように教えることを最優先にしたり、ほかの人々の生活をより良くするためにあらゆる面で奉仕したりしています。それはなぜでしょうか。

そのおもな理由として誓約があげられます。誓約とは神聖な永遠の契約であり約束です。バプテスマや聖餐式せいさんしきのときに交わされる誓約のように、神と個人との間で交わされる誓約もあります。もしくは神がアブラハムとサラ、そして彼らの正しい子孫たちに約束されたように、神と民との間で交わされるものもあります。(アブラハム2:8-11; 創世17:19参照)各々の誓約に対して、主は私たちが受けることのできる祝福と、その祝福を受けるために行なうべき事柄について説明しておられます。そして誓約を結ぶかどうかは、私たちの選択にゆだねられています。

モルモン経は末日聖徒が「わが誌したる所に従いてこれを実行する」(教義と聖約84:57)のために与えられた誓約であると主は述べておられます。また、福音は新しきあたら且つ永遠の誓約であると定義されています。(教義と聖約22:1; 66:2参照)

私たちは末日聖徒として多くの誓約を交わします。バプテスマを受けるとき、「主に仕えてその命令を守る」(モーサヤ18:10)主の証人となることを誓います。毎週日曜日には「御子を常に忘れず、またその下したまえるいましめ誠命を守ることを」(教義と聖約20:77)再び証明するために聖餐を受けます。

「その誓約は主にとってきわめて重要なものに違いありません。そうでな



ければ主は私たちにこのようにたびたび繰り返すようにはおっしゃらないでしょう。もし私たちが同じ誓約を何度も繰り返しておきながら守らなかったならば、私たちは主にまみえるときに何と言われるのでしょうか。一方、もし私たちがその誓約を守るならば、すべてに勝る最もすばらしい祝福を受けることができるのです。」(パーラン・アンダーセン「ニューエラ」1989年4月号, p.6)

私たちは誓約を守ることによりキリストのようになることができます。例をあげてみましょう。ソルトレークシティーに住むキャサリーン・マグワイヤー姉妹は、隣人の重荷を軽くすることにより誓約を守っています。7人の子供の母親であるマグワイヤー姉妹は、学校の教師を務める傍ら年老いた母親の世話をしています。さらに、外出できない姉妹を定期的に訪ねたり、離婚して間もない姉妹を励ましたり、知能に障害を持つ子供の母親の悩みを熱心に聞いてあげたりしています。

誓約を守ることは教会での責任に対する態度にも影響します。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老は、

ステーキ部長の責任を解かれたある兄弟について話されました。その兄弟は次のように言いました。「私はステーキ部長として働く召しを喜んで受け入れましたが、この解任も同じように受け入れます。私は召されたという理由だけで働いたわけではありません。誓約を交わしているから働いたのです。私はステーキ部長として仕えるときも、ホームティーチャーとして仕えるときも、まったく同じように誓約を守ることができます。」

パッカー長老は次のように述べました。「儀式と誓約は、神のみもとに行くための資格証明書になります。ふさわしくなってそれを受けることは、生涯の目的であり、最後までそれを守ることは、この世におけるチャレンジです。」(『誓約』「聖徒の道」1987年7月号, pp.24, 25)□

訪問教師への提案

1. 福音の誓約が私たちの生活にとってどのような指針となるか話し合う。
2. 今までに交わした誓約がどのように役立ったか、感じていることを述べる。差し支えなければ訪問先の姉妹にも話してもらう。

(「家庭の夕べアイデア集」[PBHT5197JA]第13課「バプテスマとキリストのみ名」pp.58-62, 第14課「聖餐」pp.63-70, 第29課「バプテスマの準備」pp.131-33参照)



チームワークを築く

神権指導者と扶助協会の指導者は、どのようにすれば最も効果的に協力して働くことができるでしょうか。

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



シェリー・ジョンソン
(ユタ州バウンテフル
西ステーク部扶助協
会会長)

私がこの問題について話し合った神権指導者や扶助協会の指導者は、チームワークがよくとれるようにするには次の2点が大切であると指摘しています。協力を惜しまない態度と意思の疎通がそれです。

では、どのようにすれば進んで協力する態度を育てることができるでしょうか。ある聡明なステーク部長は神権指導者や扶助協会の指導者に次のような助言を与えました。「みずからの行

動を評価するには『ほかの人たちはこれまでにどうしてきただろうか』と問うよりも、『主ならどうされるだろうか』と問うてみてください。』ワード部の指導者たちはこの考え方をもとに、現状での協力体制の「方針」を検討し、これまでのワード部のやり方をいくつか変更しました。まず第1に、神権会では兄弟たちの了解を得るためにワード部予算が提示されていたのに、扶助協会では姉妹た

ちに提示されていませんでした。

「主がこのようなことをされるだろうか」と神権指導者たちは考えました。

「否」という結論に達し、「教会指導総合手引き」を開くと、次のような指示が記されていました。「編成したワード部予算案を特別集会を用いてワード部会員に提示し、話し合う。」(p. 9-2)これまでのやり方は変更され、姉妹も予算編成に関与するようになり、結果的にはワード部の活動に対する姉妹の協力度が著しく増大しました。

同様に、扶助協会の指導者も自分たちの問題の処理の仕方について反省しました。その過程でわかってきたことは、扶助協会でも神権指導者と相談せずに計画の立案、導入を行なうことがたびたびある、ということでした。「主がこのようなことになるだろうか。」今度は姉妹たちが考えました。

「否」と判断した姉妹たちは、次いで、扶助協会を立てるとどのような計画も神権指導者と検討してから実施

することを決定しました。

効果的な協力体制を築くための第2の点は、意思の疎通です。私たちのステークキ部では、月に1度、ステークキ部長、ひとりの副ステークキ部長、扶助協会担当の高等評議員、扶助協会会長が集会を開くことにしています。この集会で、ステークキ部長はステークキ部の目標や新しい方針、現在強調しているテーマを扶助協会会長に伝えます。私たちの方からは扶助協会会長としての目標、情報、感想、問題などをステークキ部長に知らせます。このような集会は、多くの場合、それに費やす時間に比べて何倍も価値のあることがわかりました。

たとえば、あるとき、ステークキ部長は自分の心を痛めている問題、またこの問題と取り組むにあたってステークキ部で掲げようとしているテーマについて話しました。向こう3カ月は、高等評議員たちもこのテーマで話し、同じテーマについて違った角度からステークキ部内で教えていくことになっていました。その同じ週に、私たちはステークキ部扶助協会指導者会の計画のために集会を持ったのですが、ステークキ部と足並みをそろえて同じ問題のために働けるよう、ステークキ部長との話し合いを基に計画を練ることができました。

またあるとき、各ワード部の扶助協会会長会に対してモルモン経を読むことの大切さを強調しましたが、

そのときの結果を分析してステークキ部長に報告したところ、今度はステークキ部長が、私たちの提供した情報を活用することができました。意見や計画を交換するだけで様々な良い結果が生まれてきます。そうすることによって神権指導者も扶助協会の指導者も、共に現状を理解し、互いに支援できるようになります。

私たちは最近ある経験を通して、意思疎通の大切さを思い知らされました。私たちのステークキ部が、緊急に缶詰作りの割り当てを受けたときのことで、福祉担当の高等評議員はこの割り当てを日曜日に受けたのですが、その日の集会で発表するには間に合いませんでした。この割り当てを知らされたのは各ワード部の監督だけでした。その週の火曜日にワード部扶助協会会長の集会に出席した際、私は次のような発言を耳にしました。「神権指導者がせめて3日以上前に私たちに知らせてくれればよかったのに。彼らは6週間も前からこの割り当てを知っていたはずです。」

「そんなことはないと思いますよ」と言ったものの、私は自分自身確かなことを知らなかったために、気まぐずい思いをし、姉妹たちの不満をこの集会で感じました。あとで事情を知らされ、姉妹たちの発言のほとんどが誤っていたこと、私が状況をもっと把握できていれば、即座に訂正できたはずであることがわかりました。

もちろん、緊急事態というのは避けられないものであり、その中で私たちは最善を尽くさなければならぬわけですが、時間的な余裕がある場合には、やはり神権指導者は扶助協会の指導者に事前に活動や割り当ての連絡を十分取るよう心がけるべきでしょう。このように適確に連絡を受けることで、扶助協会の姉妹たちはワード部やステークキ部の中であって前向きに熱意をもって行動できるのです。また同じように大切なのは、扶助協会の指導者が秘密にすべき情報を取り扱ううえで信頼されるようになり、積極的な態度で神権指導者を支持することです。うわさ話や否定的な話はみたまを遠ざけるものであり、避けなければならないものです。

神権指導者も、定例の活動を計画実施する際に、扶助協会の指導者と共に話し合う必要があります。ステークキ部やワード部の食事会やリフレッシュメントの計画を立てるときだけそうするのは不十分です。同じく、扶助協会の指導者も、姉妹たちの霊性や社交性を伸ばすために、扶助協会の活動を計画すべきです。姉妹たちはほかの女性が福音を教えたり、聖典に関する知識を増し加えたり、そのほか様々な活動に携わったりして、ワード部やステークキ部の霊性の向上に貢献している姿を目にする必要があるのです。

神権指導者と扶助協会の

指導者が有機的に協力し合って働くもうひとつの方法は、初等協会や若い女性なども含めた補助組織の指導者と担当高等評議員を招待して集会で話をしてもらうことです。同様に、監督の訓練集会、高等評議員の訓練集会、そのほかの神権指導者会で扶助協会の指導者に話を依頼するという方法もあります。神権指導者が自分の担当する姉妹たちをもっとよく理解するために、女性の発言が役立つでしょう。また、神権者の視野を広げ、指導者としての効果的な決定を下すうえで役立つはずです。

神権指導者と扶助協会の指導者が互いに意見を述べ合い、情報を交換し、活動を調整していくときに、強い仲間意識や一致の精神が生まれてくるものです。そこから様々な良い結果が生じ、いらだちも次第に解消されていくのです。神権指導者と扶助協会の指導者がひとつとなり、効果的な働きをするときに得られる最大の収穫は、それを目にした人々に与えられる、次のような証そのものにほかなりません。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」(1コリント11:11)□

ほかの人にはない魅力

リカルド・バティスタ



真理への道というものは、だれもが一目で気づくわけではありません。特に自分が何を求めているのかははっきりしない場合はなおさらです。私もそのひとりでした。

でも私は、すべての人に与えられているキリストの光により、導きを得ることができました。私は宗教を重んじる家に育ち、正しい原則に従い、義になつたことを求めるように教えられました。そうした教育を受けて育った私は、イエス・キリストへの特別な愛を抱くようになりました。でもイエスの永遠の使命について完全に理解していたわけではありませんでした。

そんなある日、ミリアムという若い女性を紹介されました。ほかの人とはどこか「違う」といった感じの女性でした。心の美しさがにじみ出ているのです。私たちはデートを重ねながら親しくなり、私は彼女を愛するようになりました。

私たちは何でも遠慮なく話すことができました。そして何でも意見が一致したのですが、ひとつだけ例外がありました。宗教です。

ある午後のこと、ジョセフ・スミス(私は彼が予言者であることは受け入れられませんでした)とモルモン経(この書物についても大きな疑問を感じていました)について話した後で、彼女はステーク部宣教師として働くように召されたと言うのです。

利己的にも、私は彼女がそのような召しを受けたことに腹を立てました。そして考え直さなければ別れると言ったのです。でも、私はそのときの彼女の自信に満ちた冷静な態度に圧倒されてしまいました。自分を本当に愛してくれているのであれば、自分が決めたことを理解して受け入れ、しかも支持してくれるはずだと言うのです。それだけでなく、彼女は私に教会に出席するように勧めました。そして、真実かどうかを自分で判断してほしいと言うのです。

私は愛する女性を失ったらどうなるのか考えました。また、ミリアムが宗教をどれほど大切にしているかもわ

かりました。なぜ彼女が、私には理解しかねるあのような決断を下したのか調べてみてもいいのではないかと思うようになりました。

次の日曜日、教会に入った途端に私の人生を照らしていた真理の光が輝きを増してきました。ドアを開けるなりまず最初に驚いたのは、背の高い金髪の男性が温かく私を迎えてくれ、このワード部の監督だと自己

紹介したことです。それから間髪を入れずに何人かの人が歓迎のあいさつをしてくれました。

私は驚きました。初対面の人に対して、こんなに多くの人が心からの愛を示してくれたのです。それから集会に出席しましたが、みたまに関する事についてあれほど確信をもって雄弁に話すのを聞いたのは初めてでした。

ミリアムから感想を求められた私は、深く感動したことを認めたくなかったので、少し冗談を言ってごまかしました。しかし、私の心は一段と明るい光に満ちあふれ、私はミリアムやほかの人たちがなぜみんなと「違う」のかがわかり始めたのです。

私はそれまで、どんな宗教にも興味がありませんでした。あまりにもなぞめいたものばかりに思えたからです。でも、ミリアムと教会に集い続けるうちに、末日聖徒イエス・キリスト教会に対して抱いていた疑問はすべて解けていきました。そして、光はさらに輝きを増し、その道を歩んでいった私はやがてバプテスマを受け、そして最初にその道を教えてくれた女性と神殿結婚をすることになったのです。

若いころは人生には選べる道がたくさんあるように思えました。しかしその多くは不幸へ通じる道だったに違いありません。私は、ひとりの特別な女性を通して永遠の真理の光へと通じる道を見いだしました。その祝福は、主に対して恩返しをすることなどとてもできないほどの、あまりにも大きな祝福なのです。□

*リカルド・バティスタ：アルゼンチンのブエノスアイレス東ステーク部所属。妻と共に、ステーク部ヤングアダルトアドバイザーとして働いている。

ポルノグラフィー との戦い

R・ガレ・シャペロ

家族のために娯楽を選ぶ際、私たちは、ポルノグラフィーに対する世の中の定義に左右されてはなりません。末日聖徒はより高い標準を守って生活するべきです。

17歳になる息子が、友人が見たというある映画を見に行きたいと言いました。そこでその映画についての新聞の論評を読むと、「性、冒瀆、暴力、俗悪」などが描写されていると批評してありました。「だからどうだって言うの。学校で見たり聞いたりしているのと同じようなものさ」と息子が言いました。私は答えました。「そうかもしれない。だが、だからと言って、お前がその映画を見るべきだということにはならないのだよ。」そして私は、新聞の論評によるとその映画はポルノグラフィーだそうだと話しました。「ポルノじゃないよ、お父さん。」息子は反論しました。「新聞には十代向けの喜劇だって書いてあるよ。それにぼくは十代だし。」

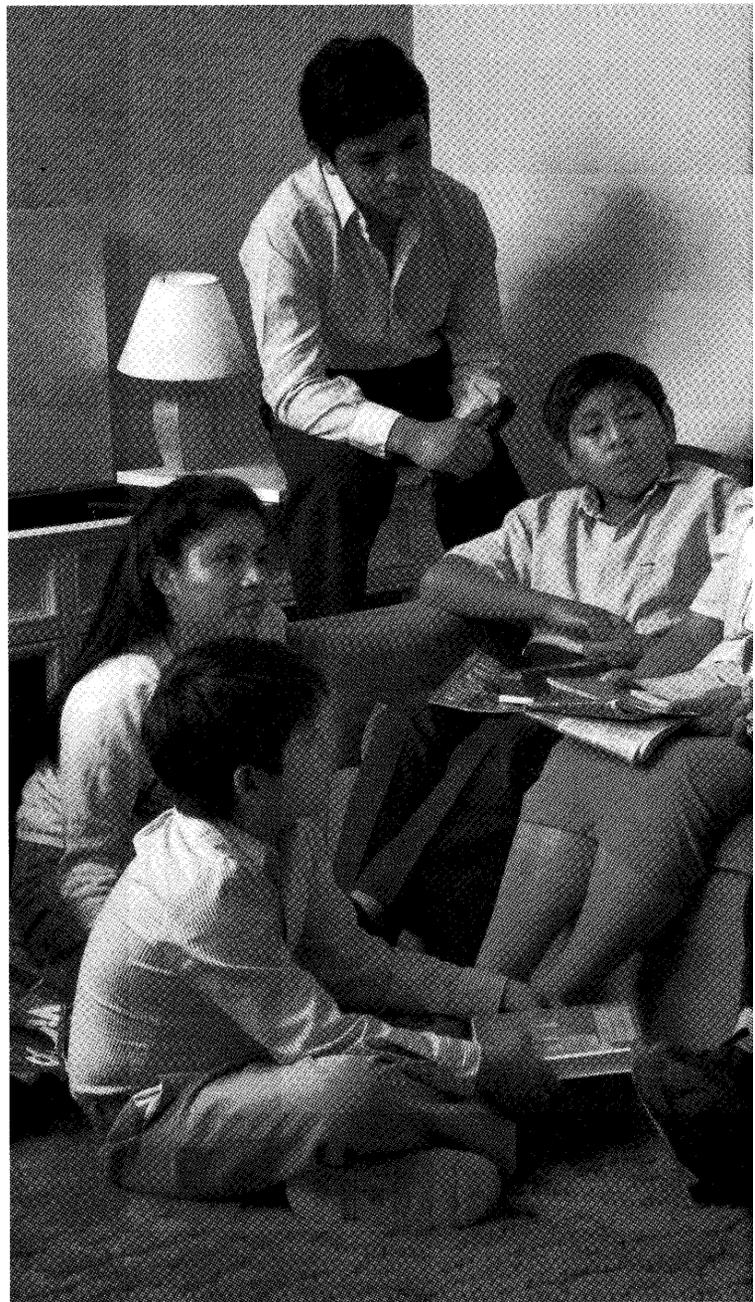
「確かにあなたは十代だ。だが、ただの十代の少年ではないのだよ。お前は神様の神権を持っているんだ。だから行くのをよしてくれないか」と私は言いました。

息子は行きませんでした。

ポルノグラフィーとは何なのでしょう

親が子供にポルノグラフィーを説明する際に、簡単な福音の言葉が役に立つことがわかります。辞書にあるポルノグラフィーの定義から始めたいと思います。辞書には「純潔あるいは慎み深さを損なうこと」と書いてあります。この定義は役に立ちます。というのは、慎み深さや純潔の原則は、子供たちにも容易に理解できるからです。

末日聖徒は、慎みに対するはっきりとした標準を持つ





ています。それは神殿のガーメントが明瞭に示しています。ガーメントは、素肌を覆うものです。私たちの肉体を人前にさらすのを避け、ふさわしく覆うことが慎み深いということなのです。肉体を隠すのに不十分な衣類や体にぴったりしている衣類、また肉体を見せるような衣類をまとうことは、慎み深くありません。水泳や運動競技に参加するような場合でも、服装や身だしなみは、慎み深く上品で、競技にふさわしいものとすべきです。肉体あるいは肉体の機能に敬意を表わさないような話し方をするのも、また一種の不謹慎な行為です。

純潔は生殖の力の神聖さと関係があります。これは特に神聖な力であり、結婚という誓約の中でのみ行使すべきものなのです。

主は、人間の体は神の宮居であると言われました。(教義と聖約93：35参照)神の宮居とは主のみたまが宿る神聖な場所です。神殿がそうであるように、肉体もまた神聖なのです。その中で最も神聖な力が生殖であり、神殿の中の日の栄の部屋にたとえることができます。神殿の壁やとばりは、この神聖な場所を聖く保つために、幾重にも保護する役割をしているのです。同様に生殖の力もまた、慎み深さという覆いで幾重にも保護されるべきです。

私たちが、結婚の誓約の中でのみ生殖の力を行使するとき、また畏敬の念を持って、生殖について考えたり、話したりするとき、純潔の律法を守っているとと言えます。

両親や指導者は何をすべきでしょうか

1. 私たちの家庭や地域社会にどのようなものが入り込んでくるか、再評価する。

末日聖徒の指導者は邪悪な行為やポルノグラフィの脅威について、はっきりと話してきました。その上、それと戦う方法について提案してきました。私たちは、まず自分自身と自分の家族から始めなければなりません。

近ごろ、もうひとりの息子が、ある映画を見てよいかと尋ねました。それは、ある物語の4回目の映画化で、おそらく今までで一番良い出来だと思われる、と論評されているものでした。妻と私は、以前映画化されたものを見ており、子供たちに見てよしいと許可を与えていたことがありました。新しい映画のこの批評に基づいて私たちはもう少しで息子にその映画を見てもよいと許可するところでした。

しかし、ある長めの論評の中に、次のような警告があるのに気づきました。「残念なことに、ここではあまり望ましくない方法で性を取り扱っている。……特にある場面などは、若い人たちに間違った意識を植え付ける可能性が十分あり得る……。」

この論評の最後は、次のような警告で結んでありました。「両親の方々には、この映画は、年少の子供向けの映画ではない、と特に忠告したいと思う。」聖典の標準に照らしてみれば、これはポルノ映画と言えるものでした。

問題なのは、映画だけではなく。本や雑誌、歌詞などにも同様に、品位を欠くものがあります。新聞や雑誌の評論家の意見も役立つこともありますが、大抵の専門家は聖典の標準を適用して批評しているわけではないことを忘れてはなりません。次のような言葉を、末日聖徒からさえもますます頻りに聞くにつけ、残念でなりません。「2, 3カ所悪いところはあるが、あれはすばらしい映画(あるいは本)だ。君もきつと気に入ると思うよ。」

当時、七十人第一定員会会員のW・グラント・バンガター長老は、一般大会で聖徒を前にして次のように述べています。「私たちの社会には、依然として、^{かんいん}姦淫やポルノグラフィ、裸体、放縦のたぐいを描いたものを青少年の目に触れさせるべきではないという考え方があります。……年齢制限をすること自体がそもそも偽善なのです。」(『霧の中を通り抜ける』「聖徒の道」1984年7月号, p.48)

もし題材が、慎みあるいは純潔を損なうような事柄を含んでいるなら、それはポルノグラフィであり、避けるべきものです。問題はそうにごく簡単なことなのです。

教会の英文パンフレット「ポルノグラフィと戦うために」は、ポルノグラフィにさらされることを避けるために、次の方法を提案しています。

- 人間の尊厳と健全な生活に焦点を合わせた、個人と家族の標準を定める。
- 適切な年齢の子供と、ポルノグラフィとその危険性

について、包み隠さず話し合う。

- 人間の体の神聖な特性や、正しい性的関係から得られる喜びを強調する。
- ポルノグラフィに接すると思われる場所は避ける。
- テレビ番組はよく選んで見るようにする。
- 映画などの娯楽は、信頼できる論評に基づいて選ぶ。
- 良書を読み、……子供たちにも読んで聞かせる。
- 不適切だと思われる音楽や歌詞に注意する。若い人やそのほかの人に与える影響について話し合う。

2. 私たちの発言を聞いてもらう。

もしある店が、ポルノグラフィを題材とした物を売ったり貸したりしているなら、変更させる権限を持っている人に話してみてください。経営者と穏やかに話し合ったり、注意深く書いた手紙を送ることは、よい効果が期待できます。もしこういう努力が実らなくても、隣近所や学校、または地域社会のグループに加わり、店からポルノグラフィを追放するように運動するとよいでしょう。

新聞の編集者、ラジオ局やテレビ局、広告主や議員に手紙を書くのもよいかもしれません。教会員が社会の人と協力して、ポルノグラフィに反対するグループ活動に参加することは、ふさわしいことです。

3. 妨害を予期する。

どのような行動をとるにせよ、どの程度の反対に出会うかによって、多くの場合自分たちの力を計ることができません。正義を奨励しようとすれば、必ず批判を引き起こします。バンガター長老は次のように警告しています。「世の中の実に多くの人々が(姦淫やポルノグラフィ、裸体、放縦のたぐいを描いたものを)容認しているのに、受け入れなかったり公然と反対したりすれば物笑いの種になると言うのです。そして紳士淑女ぶっている、……独善的な人間だと、まるで自分が罪人にでもなったかのように呼ばれ、人間の体の『美しさや本性』を認めないのは悪意に解釈しているからだと言われかねないと言うのです。」(同上, p.48)

いつか聖徒たちは、清潔で純粋な社会を建設することに成功するでしょう。それは救い主がおいでになるシオンのことです。ほかの汚れた物と共に、ポルノグラフィはその社会から排除されるでしょう。一方、慎みと純潔を守るための私たちの言動すべてが、そのようなシオンの来るべき建設に貢献しているのです。今すぐにその成果が目に見えなくとも、この問題については、いつも必ず主の側についているようにすることが必要なのです。□

*R・ガレ・シャペロ：ユタ州プレザントグローブ・ティンパノゴスステーク部のプレザントグローブ第11ワード部所属。



我が家で祝う親戚の誕生日

ジャーニン・ハンセン

私はある日、義理の兄弟から写真の入った手紙を受け取りました。大勢いる親族の元を離れて、夫や3人の娘と共に田舎へ越してからのことでした。ところが、娘は3人とも叔父と親しかったはずなのに、3歳になる娘は自分の叔父の顔をすっかり忘れていたのです。私はがく然としました。引っ越してからまだ半年しかたっていないからです。この事件があつてから、私は子供たちともっと時間を取り、親族について話す必要があると感じるようになりました。子供たちに大勢いる親族のことや、自分もその中のひとりであることを知らずに育ってほしくなかったからです。夫と私は、親族に親しむ機会を家庭の夕べで何回か作ることにしました。

私たちはまず夫の祖母の81歳の誕生日のお祝いを家庭の夕べで行なうことにしました。その1週間前の家庭の夕べで、私たちは3人の娘にこう話しました。「家族にとってとても大切な人がもうすぐ誕生日を迎えます。私たちと一緒に祝いしましょう。」最初に、夫と私はこのひいおばあちゃんの写真を何枚か子供たちに見せて、子供たちがひいおばあちゃんと遊んだときの思い出を話して

聞かせました。次に、夫が彼女にまつわる思い出や、少年時代彼女の農場で過ごしたときの話などを聞かせました。

そして色紙やクレヨン、のりを用意して娘たち一人一人に、ひいおばあちゃんの誕生日のカードを作ってもらいました。夫は祖母に対する愛と感謝の気持ちを手紙に書きました。こうして翌日、私たちはそのお祝いのカードを投函しました。

子供たちは喜々としてこの活動に参加しました。しかし、本当の祝福は、子供たちがひいおばあちゃんについてもっとよく知ることになったということです。ひいおばあちゃんが遠くに離れていても、子供たちは彼女の愛を知ることができました。そして、人に喜んでもらえるようなことをするのは楽しいものだ、とわかったのです。

時間を取って親戚との結び付きを強めることがどれほど大切であるか、私たち家族みんなが学びました。今では、遠く離れて住んでいる親戚のために誕生日のお祝いをするのが、我が家の伝統になりました。□



「みんな大丈夫！」

ジャネット・トマス

物事がすべてうまくいっているとき、セント・トマス島に住む人々はこう言います。

「私 はあの人の方が間違っていることを何とか証明しようとしていたの。」ダイアン・ピーパーはカリブ海の島、セント・トマス島の末日聖徒の小さな支部に出席するように、あるひとりの教会員から誘われたときのことを思い返してこう言いました。

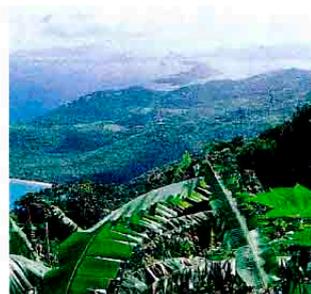
「ジェフルド・カークス兄弟は私にこう言いました。『ただ行ってみて、疑問に思うことがあったら何でも聞いてみるといいですよ。だれも無理やり教会に入れようとはしませんから。』」

ダイアンは最悪の事態を予想しながら教会に向かいましたが、実際には悪いことは何も起こりませんでした。「私の友達には教会にとっても反対していたんです。そして、教会ではいろいろなひどいことがあると話していました。私は教会に行ってそのようなことが起こるのを待っていたんですが、そこで見たものは愛、それもあふれんばかりの愛でした。」今、ダイアンはセント・トマス支部の会員です。

セント・トマス島は合衆国のバージン諸島の中にあり、緑豊かな、きらめく白い砂浜に囲まれた小高い丘状の島です。暖かいエメラルドグリーン的大海。浜辺にはヤシの木が連なり、涼しい日陰をつくっています。野生のイグアナ(トカゲ)が、好物の赤いハイビスカスの花を捜しにのんびりと歩き回っています。暑すぎず寒すぎずちょうどよい気温です。この島は多くの人々にとってパラダイスと言える所なのです。

しかし、このパラダイスにも少し難点があります。雨です。毎日降るのです。皆、いつも傘を持ち歩かなくてはなりません。そして金属品はみなさびてしまうのです。

セント・トマス島には独自のサウンドとリズムがあり



ます。ダイアンやその友達が大好きなカリブソのリズムがどこからも聞こえてきます。通りで聞こえてくる音楽や、人々がそっと口ずさむメロディーの中、会話の中にさえもそのリズムが感じられます。

セント・トマス島ではアメリカ英語が話されており、住民は島の訪問者とこのアメリカ英語で話します。しかしセント・トマス支部の青少年の間では、島の住民たちの多くが話すように、早口でなまりのある英語が使われています。たとえば、幸福感と安心感を感じているときには「みんな大丈夫」と言うのです。

ダイアンは教会に入ってから生活が大きく変わりました。こう言っています。

「私は自分の態度を変えなくてははいけませんでした。そして、生活や友達も。以前は日曜日に浜辺に行くのが好きだったし、悪い言葉もたくさん使っていました。今はちゃんと予言者に従っていますよ。」

ダイアンとそのほかの青少年は丘の上にあるきれいな白い教会堂に集まり、自分たちの改宗について語り合っています。高校の「ミス写真コンテスト」と「ミス人気コンテスト」の女王に選ばれたダイアンは、ほとんど話し通しです。何をするのが好きかとの質問に対する彼女の答えは明白です。「おしゃべりをする事。」

そこにいた皆がうなずき、マーレン・ジャクソンは悪気なしに言いました。「まったくそのとおりだ。」

ダイアンは好きなことを次々にあげていきました。「海を見ること。そよ風の香り。浜辺に行くと私の周りにずっと広がるきれいな砂。カリブソ音楽。それから、教会堂のそばを車で通るときには、いつも丘を見つめて『とてもきれいな私の教会』って言うんです。」

教会堂の中に入るとダイアンは続けてこう言いました。「私はここにあるイスが好き。託児室も。カーペットの敷いてある教会なんて初めてよ。集会に参加した最初の日、とっても驚きました。どこもかしこも清潔でとてもきれいなんですもの。教会ではだれもが温かく歓迎してくれます。会うと抱き合っあひさつするんです。ここではみんなが愛し合っているわ。」

ダイアンのほかに、カークス兄弟は何人かの青少年に教会を紹介しました。テレサ・マティスはこう言っています。「カークス兄弟は冗談を言っているのかと思いました。私に教会に来るように誘うのです。とうとう行くことになりました。そしていつも幸せな気持ちで帰って来ました。でもカークス兄弟には知らせませんでした。」

テレサの妹のニコルはテレサと一緒に教会に行き始め、







ふたりともバプテスマを受けました。テレサはバプテスマを決意して生活が変わると、友達を失ってしまうのではないかと心配したのですが、こう言っています。「友達は減らなかったの。逆に増えたわ。」そして一緒に集まり、輪になっている仲間を見ながらこう言いました。「みんな私の新しい友達よ。」

ジョーネル・フォスターは伝道を心待ちにしている、背の高い、まじめなアロン神権者ですが、彼もやはりカークス兄弟から教会を紹介されました。「ぼくもカークス兄弟はちょっとおかしいんじゃないかと思いましたが、母は断わるのなら一度話を聞いてからにしてください。ぼくは前からキリストを信じていました。今、その信仰は確かなものとなりました。ぼくには心からの確信があります。」

ジョーネルは海でバプテスマを受けました。「バプテスマの日はぼくの人生の中で一番幸せな日でした。自分が清められたと感じ、これは正しいことなんだと思いました。教会は毎日の生活の原動力になっています。もし、ぼくが言うことを何か書かれるなら、こう書いてください。『私はこの教会が真実であることを知っています』って。」

そのほかにも、何人かの若者たちがいろいろな方法を通して教会を知りました。マーレン・ジャクソンの家族は教会が製作してテレビで放映した一連のコマーシャルに感動しました。「だれだってあのコマーシャルに出てくる人たちのようになりたいと思うわ」とマーレンは言いました。マーレンと母親と弟は、宣教師のバプテスマのチャレンジを受け入れました。

ベス・ボールドは昔からの教会員で、両親と共にセント・トマス島に移り、支部の青少年プログラムがだんだん大きくなるのを見てきました。ベスは支部長の奥さんのキール姉妹が青少年のためにセミナーを始めたときのことを思い出してこう話してくれました。「セミナーはとてもためになりました。本当に自分で予想していた以上に多くのことを学べたの。」

セント・トマス支部の青少年たちにとって、福音を学ぶことは生活に喜びをもたらしてくれるものでした。青少年たちは神が自分たちを愛してくださり、悔い改めて神に立ち帰ることができることをはっきりと知っているのです。そして自分たちの知っていることをほかの人々に伝えたいと思っているのです。そして、この知識があるからこそ「みんな大丈夫」と言えるのです。□





E.T. BARRETT

次の15分間

名誉教会幹部

ロバート・L・シン普森

見 たところいつもと変わらない日曜日の朝のことでした。毎週行なわれる執事定員会がいつものとおりに始まろうとしています。ところが、次の15分間に起きた出来事は、当時12歳の少年だった私には驚くべきものでした。私の心は3日前の木曜日に経験したことで、それまで動揺していたのです。

聖餐会でモルモン経について語った熱心な伝道主任の話に心を動かされ、私は親友や学校の友人たちにモルモン経を渡したいと強く思っていました。ところが、なかなか決心がつきません。相手が受け取ってくれなかったらどうしよう。仮に受け取っても、モルモン経の内容に反対されたらどうしよう。狂信的な信者だと思われたりしないだろうか。様々な思いが私の心にわき上がってきました。中でも最も恐れたのは、私のしたことで友達との友情が壊れないだろうかということでした。

しかし、従順についてのニーファイの力強い証が、私に勇気を与えました。「私は主が命じたもうたことを行って行く。」(I ニーファイ 3 : 7) また、すべての会員は宣教師であると私は教えられていました。そこで、翌日の昼休みに、私は親友にモルモン経を渡したのです。そしてモルモン経が真実の書物であること、このアメリカ大陸の昔の住民にキリストがみ姿を現わされたという記述がモルモン経の中にあること、モルモン経によって聖書がさらによくわかるようになること、などについて私の証を述べました。友人は、礼を言ってモルモン経を受け取り、読むと約束してくれました。それは互いに信頼し、理解し合ったふたりの若者の、普通の会話でした。

2日後、友人は私にモルモン経を返してきました。「もう読み終わったの？」私は尋ねました。

「いや、読みたくないんだ。」

「どうして。」私は心配になって聞き返しました。

「両親が読んじゃだめだって言うんだ。昨日の晩ある

ことがあってから、ぼくもそう思ったよ。」

「あることって？」

「放課後、時間があるんなら、教えてあげるよ。」友人はそう言いました。

放課後、友人は私を連れてまっすぐに公立図書館に行き、「宗教」と書かれた書架の前に立ちました。その前の晩、友人はこの同じ場所へ両親に連れて来られたのでした。友人は棚に手を伸ばすと、「世界の宗教」と題された一番厚い本を取り出して最初のページを開け、著者のリストを私に見せました。確か、少なくとも12人の著名な教育家、神学者、学者の名が出ていたはずで、だれが見ても感心したでしょう。間違いなくこの本は十分に資格を備えた人々が記した、世界の著名な宗教に関する権威ある書物であり、資料の裏付けも十分でした。

友人はそれから「モルモン教」と書いてあるページを開けました。ほんの数秒それに目を通しただけで、私はすっかり動転してしまいました。次のように記されていたからです。「モルモン経は偽文書である。……ジョセフ・スミスは欺かれて、幻覚を見た。……モルモン経と回復にまつわる出来事は作り話であり、本物らしく見せかけた思いつき、偽りにすぎない。」私は完全にその本に打ちのめされてしまいました。

両親はそれまで私に何かを隠そうとしてきたのだろうか。監督や日曜学校の教師たちは、私にすべての真理を話しそびれていたのだろうか。私は自分の生活の土台が崩れていくような気持ちを感じながら、その場にくぎ付けになっていました。教会を愛していたからです。私はほんの2、3カ月前に授けられたばかりのアロン神権をととても誇りにしていました。それが今や、教会に対する私の知識はたった数分で粉々になったように思えました。何しろこの本が本棚の中で一番厚かったし、著者たちの立派な経歴は十分な説得力を持っているように思えたの



です。

私は心の奥深くに受けたこの傷について、だれにも話しませんでした。両親にさえ話しませんでした。そして数日間、このことについて考えなければなりませんでしたが、天父には心の不安と葛藤を打ち明けていました。天父は少年時代からの私の信仰の中心だったからです。また、聖なる森で驚くべき体験をした後、敵対者たちからあざけりを受けた予言者ジョセフ・スミスについても考えました。彼はこう語りました。「私は……それが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかつた。またあえて打ち消そうともしなかつた。私は少くとも、本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている……。」(ジョセフ・スミス2：25)

公立図書館ですっかり気持ちを乱してから3日後の日曜日、私は見たところいつもと変わらない執事定員会の集会に出席していました。ところが、次の15分間に、私にとっては驚くべき出来事が起きたのです。

開会の祈りの後、ステーキ部高等評議員のコーブリッジ兄弟が紹介されました。コーブリッジ兄弟は家族と一緒に休暇旅行から帰ったばかりで、クモラの丘やニューヨーク州パルマイラに近い聖なる森といった、教会歴史にまつわる史跡を訪問したと言いました。そして、聖なる森で家族が経験したことを詳しく話してくれました。1820年、早春の朝、天父と救い主はこの森でジョセフ・スミスに姿を現わされました。コーブリッジ兄弟の家族はこの場所で確かにみたまの訪れを受け、その出来事が

真実であるという疑う余地のないはっきりとした証を受けたのです。

そのときでした。家族の経験を感情を込めて語るコーブリッジ兄弟の話が進むにつれ、へりくだって切実な気持ちで捧げていた私の祈りが答えられ、聖霊からの証がせきを切ったように私の胸を満たし始めたのです。身なりの整った堂々たるビジネスマンが恥じらいもなく両目に涙を浮かべ、若い執事たちを前にして心の最も深い思いを打ち明ける様子に、私は目をみはりました。熱心に祈りを捧げ、緊急の助けを必要としていた当時12歳のアロン神権者であった私に大切なことを伝えようとして、主がコーブリッジ兄弟を遣わしてくださったのです。今の私にはそれがわかります。

コーブリッジ兄弟の聖なる森での体験は、そのまま私自身の体験になりました。それほど力強く聖霊の賜が作用したのです。それは、60年を経た現在でさえ、「最初の示現」と呼ばれるあの驚くべき経験を、私自身がその場で目撃したかのように証できるほどです。モルモン経が真実、神のみ言葉であることも証できます。

確かに、天父は若人の祈りを聞いてくださいます。主はご自分が任命された神権指導者や、そのほかの善良な人々を通してしばしば答えを与えてくださいます。そうした人々の話に、心して耳を傾けましょう。私たちの思いや行ないが、聖霊による確信をその「智と情に」(教義と聖約8：2)受けるにふさわしいものとなるよう願っています。私は、若いアロン神権者のときに受けた変わることのない証に、これからも感謝し続けるでしょう。

□



贈り物

アントニオ・コウリー

砂ほこりが立つブラジルの田舎道を歩きながら、ふと私は子供のころのことを思い出していました。今私は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となり、また宣教師として主に仕えています。しかし、その日私の心は愛する叔母、あのすばらしい日、そしてあの約束へと引き戻されていました。

ロシルダ叔母さんの家族は大きな農場に住んでいました。私たちにとって親戚はとても大切なもので、叔母さんのところへ遊びに行くのは大好きでした。田舎で1日過ごす日常生活の煩わしさから離れられるので、私は田舎に行くのをいつも楽しみにしていました。ロシルダ叔母さんの農場へ行くときは特にそうでした。そして叔母にとっても、私を喜ばせることが、最も大きな喜びのひとつだったに違いないのです。

ある日のことです。農場の楽しさを思う存分味わおうとして、私は夢中になって遊びました。すると、ロシルダ叔母さんはおみやげに1匹の魚をくれました。そして、その日はそれまでになく大きな愛を示してくれたように思えました。

家に帰る仕度をしていたとき、私は叔母を抱きしめて、ひとつ約束をしました。彼女のキリストのような愛にいつか報いたいと思ったのです。「いつかきっと、」幼いな

がらも真心を込めて言いました。「ぼくはサンパウロに行くよ。そして必ず叔母さんに大きな贈り物を持って来るからね。」

その後、あの日の約束は記憶の片隅に追いやられていきましたが、大人になってからもサンパウロへの夢は消えることはありませんでした。そんなある日、叔母が亡くなったことを知りました。私は喪に服しながら、叔母と交わしたあの約束のことを思い出し、もうそれが果たせなくなったことをとても悲しく思いました。

しかし、私は実際にサンパウロへ行き、そしてそこでふたりの末日聖徒の宣教師に会ったのです。バプテスマを受けた後、私は伝道に出るために、また神殿の祝福を受けるために努めました。そしてサンパウロの宣教師訓練センターに入ったとき、叔母のことを思い出しました。一番すばらしい贈り物は何だろうと考えたとき、私はロシルダ叔母さんと福音の祝福を分かち合いたいと強く思いました。そこで、神殿に彼女の名前を提出し、身代わりの儀式を完了したのです。

叔母はこの世で「大きな贈り物」を受けることはできませんでした。でも今はきっと、それよりもすばらしい、永遠の贈り物を受けているに違いありません。□

最初のフィリピン人 夫婦宣教師召される.....

フィリピンのマニラでは今、フィリピン人で最初の夫婦宣教師が自国で伝道しています。

カルミリノ・カウイト長老とアリン・ア・リム・カウイト姉妹はフィリピン・ダバオ伝道部で、また、ラモン・マリアノ長老とアナベラ・アシロ・マリアノ姉妹は、マニラ神殿で神殿宣教師として、それぞれ奉仕しています。

カディス・ステーク部のステーク部長だったカウイト長老(66歳)は、夫人と共に公務員の仕事を退職して宣教師の召しを果たしています。

ケソン第5ワード部の会員である34歳のマリアノ長老とマリアノ姉妹は、召しを受けるまで芸能界で働いていました。

スウェーデンの教会員 によるコンサート.....

スウェーデン・ベステルハニング神殿の敷地内にあるベステルハニング集会所には、毎週日曜日の夕方になると、地元の教会員が開催するコンサートに100人から150人もの観客が集まってきます。プログラムは、大人と子供の聖歌隊やソロの発表、歌劇など安息日にふさわしいクラシック音楽です、とスウェーデン広報部長のG・ウェナーランド兄弟は語っています。

ウェナーランド兄弟は次のように説明しています。「この行事は地域社会全体のおもな文化的な催しのひとつとなり、地域の公務に携わる人々も何回かコンサートに出席してくれました。」この地域の新聞やラジオでは定期的にこのプログラムを報道しています。昨

年の9月からは、コンサートの模様が収録され、毎週月曜日の朝、ラジオで放送されています。

コートジボアールの 初等協会.....

コートジボアールのアビジャンで初めての初等協会の聖餐会での発表が14人の子供たちによって行なわれました。そのうち3人は教会の会員ではありません。

「ほとんどの子供にとって、今回が最初の発表でした」とシャリー・アーノルド姉妹は言います。アーノルド姉妹は、夫のダグと3人の子供たち(クリスタル、スペンサー、サラ)と一緒にアビジャンに住んでいます。「私たちの支部は、教会員が全部で78人くらいの小さな支部です。子供たちの人数が少ないため、ひとりでいくつもの役を受け持った子供もいました。」

聖餐会での発表は、コートジボアールの公用語であるフランス語で行なわれました。教会発行の聖餐会発表用資料のフランス語版が手に入らなかったため、アーノルド家族と地元の教会員であるパング・オキト兄弟が英語からフランス語に翻訳しました。子供たちが振り付けを楽しんだ『モルモン経の物語は』の歌詞の追加部分はテリー・ブロードヘッド兄弟が翻訳しました。

奉仕のための犠牲.....

ブラジルのサンパウロでは、ますます多くのブラジル人宣教師が宣教師訓練センターで訓練を受けています、と報告するのはエルモ・ターナー所長です。ターナー所長とロイス夫人は、たくさん宣教師が伝道のために大きな

犠牲を払っていると語っています。伝道に出るために2割増の昇給の申し出や奨学金をあきらめたり、伝道資金のために仕事に使っていた大きなトラックを売った若者もいます。また、伝道の召しを受けるために、軌道に乗っていた仕事をやめた弁護士姉妹もいます。

ターナー所長とターナー姉妹は、宣教師たちが訓練センターをたつとき、一人一人にモルモン経を1冊ずつ渡します。それらはほとんど、モルモン経寄贈プログラムで寄付されたものだと、ターナー所長は述べています。

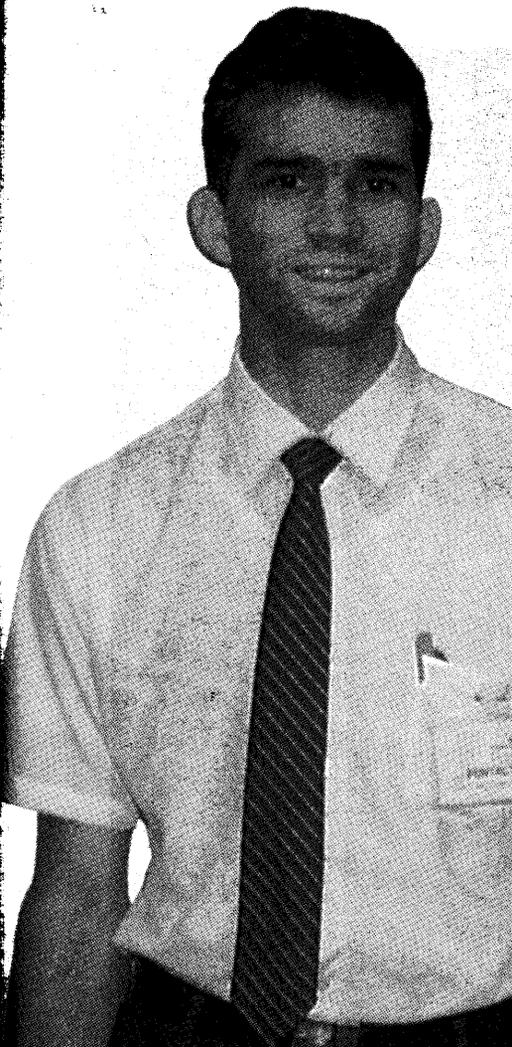
サッカー選手への夢 を捨て伝道へ.....

サンパウロのホセ・エバンドロ・ポントアルティ兄弟は、多くのブラジルの少年があこがれるプロのサッカー選手への夢がかなうのも目前というときに、専任宣教師として奉仕する決心をしました。

ホセがブラジルのカンバラにあるマイナーリーグのサッカーチームの一員だったとき、コーチのアルシデス・ドス・サントス・ゴンカルベス兄弟が教会について紹介してくれました。ゴンカルベス兄弟は、チームの仲間と聖書や家族の事柄などについてよく話し合っていました、そのうちに引越してしまいました。

ホセは、モルモン経を読み始め、すぐに証を得ました。カンバラには教会がなかったので、バプテスマを受けるために、サンパウロの近くのバウルという所まで行かなければなりませんでした。

バウルに滞在中、ホセはサッカーの試合に出場し、チームの最優秀選手に



ブラジル、サンパウロの伝道部で働くホセ・エバンドロ・ポンタルティ長老

選ばれ、プロのサッカーチーム、レガタス・ド・ブラメンゴからの入団の誘いを受けました。それから数か月後、21歳でチームの予備選手としてプロ入りするための準備をしていたとき、ホセは伝道に出る決心をしたのです。チームのオーナーやコーチは、有望な将来を棒に振ることになると反対しましたが、ホセは決心を変えませんでした。

このような決断を理解することのできない人々がいましたが、ポンタルティ長老はこう語ります。「私は、サンパウロ南伝道部で伝道することができて、とても幸福です。」

愛と奉仕

スペインのバダロナ郊外にあるバダロナワード部の若い女性について語る時、愛と奉仕を抜きにすることはできません。

ほとんどの若い女性は家に電話もなく、教会から48キロ以上離れた所に住んでいます。若い女性の組織では、すべての活動について、一人一人に連絡が行き届くように気を配っています。もしだれかひとりでも欠席しようものなら、ほかの少女たちが、何も変わったことはないかどうかを確認します。

若い女性たちは教会の枠を越えて奉仕をしています。大人から子供まで様々な年齢層の障害者のための施設で奉仕することも引き受けました。15歳のサラ・ロベス・ガリドはほかの少女たちを代表して次のように話しています。「最初はというふうに対応していかかわらなくて、こわかったんです。でも、すぐにその人たちがどんなに愛を必要としているかに気づきました。自分の時間を使い、障害を持つ人々の生活にかかわることによって、

私自身が成長できたように思います。」

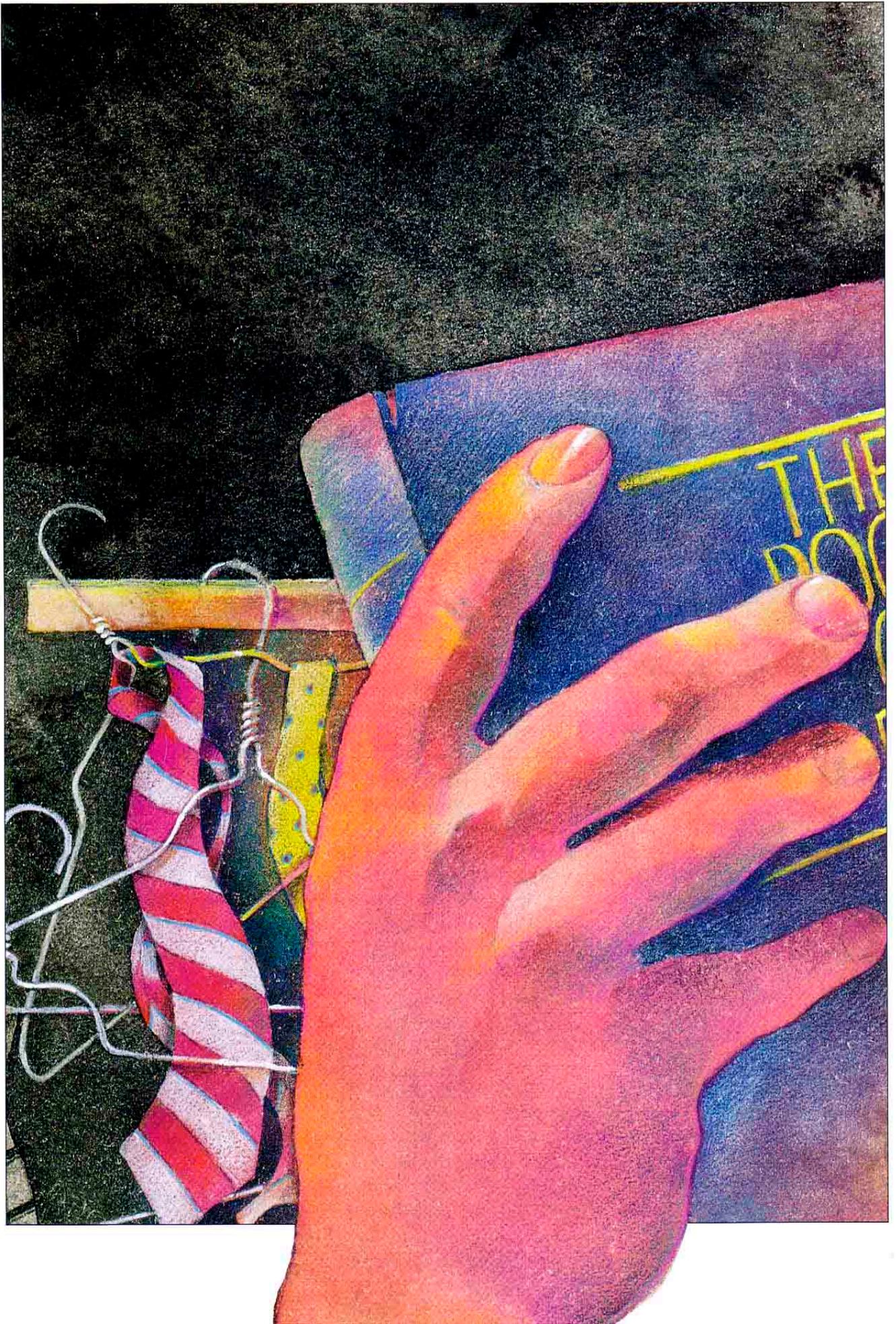
福音は、これらの若い女性たちの生活に祝福を与え、彼女たちは、愛と奉仕を通して、ほかの人々の人生を祝福しています。

皆さんの地域の教会員や教会の活動について紹介する原稿を募集しています。

あて先：

Around the World
International Magazines
50 East North Temple
Salt Lake City, Utah 84150
U.S.A.

投稿の際には、住所、氏名と共に記事に登場する人々のステーキ部/地方部名とワード部/支部名も忘れずにお書き添えください。なお日本語で書いた原稿も受け付けております。□



置き忘れた モルモン経

クリフォード・E・コールマン

私は迷いました。「どんな力がこの本に秘められているのだろう。悪魔の書物か、それとも神の書物なのだろうか。」

何年か前、私がテキサス州マーシャルに住んでいたとき、ふたりの末日聖徒の宣教師が訪ねてきました。私は興味がないと言って、丁重に断りました。宣教師たちの話が本当かどうか判断できるほど、自分は聖書に通じていると思えなかったし、それに祈りを頼まれるのが怖かったのです。宣教師はモルモン経を置いていきました。しかし、私は、本を開けて、リーハイやニーファイ、アルマといった聞いたこともないような名前を見ると、すぐに閉じて、戸棚にしまい込み、そのまますっかり忘れてしまいました。

歳月が流れ、宗教や霊的な問題を考えることはほとんどありませんでした。しかしある晩、自分のこれまでの生き方に疑問を感じるようになりました。本当に神がいるかどうか知りたくなりました。私は正直に神を見いだす努力をすることに決め、まずは聖典から始めてみようと思いました。

私は新約聖書から学び始め、プロテスタントの教会に出席しました。私は教会で学ぶのは好きでしたが、何かいらだちを覚えました。エペソ人への手紙4章5節に、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」とあります。しかし、私の友人はそれぞれに違う信仰を持ち、それぞれの信仰に満足しているように見えました。友人たちがすべて正しいことなどあり得るのでしょうか。私がこの点を指摘すると、友人たちは笑ってこう言いました。「何を信じようと問題ではないよ。要は、キリストを自分自身の救い主として受け入れるかどうか肝心のさ。」

私はそのような考えに同意できず、聖書に答えを求めました。しかし、何の答えも得られないままイライラしていました。なぜ聖書にはどの教会が正しいのか書いてないのだろうか、と思いました。次に私は答えを求めて百科事典を調べました。いろいろな教会がいつ組織されたのかを学べば、何かがわかるかもしれないと思ったのです。でも、やはり答えは得られませんでした。

そんなある日、何年も前に戸棚に置いたままにしていた本を見つけて、読み始めました。今度は興味を持って読みました。あまりおもしろかったので、私は職場の友人にその本のことを話しました。家にいても、職場にいても、映画館にいても、その本のことが頭から離れませんでした。

この本が本当に神によるものか、それとも悪魔によるものか知る必要のある段階について来たとき、私は祈ることを考えました。しかし、欺かれまいだろうかという恐れを感じました。それからモロナイ書の10章4-5節を読みました。そこにはモルモン経の中で読んだことについて、誠心誠意で祈るように書かれています。それでも私はまだ、答えがサタンから返ってくるのではないかと恐れていました。しかし聖書の言葉が頭に浮かび、心配が和らぎました。

「あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。」(マタイ7:9-10)後に与えられた答えは確かに神から与えられたものでした。

しばらくモルモン経を読んで勉強した後、プロテスタント教会の牧師にモルモン経のことを話してみようと思いました。牧師は1度もモルモン経の話題に触れたことがないので、きっと知らないだろうと思ったのです。驚

いたことに牧師は何の関心も示しませんでした。そしてこう言いました。「クリフォード、君は救われたという実感がまだ持てずにいるんだね。」そこで私たちは牧師の部屋でひざまずいて祈りました。祈りの後、牧師は立ち上がり、「これですべてよいのです」とでも言うように私を見ました。

私が「以前と何の違いも感じません」と言うと、牧師は、「ローマ人への手紙10章13節に『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』とあるの信じないのですか」と聞いてきました。そこで私はこう答えました。「信じています。でもどうしてもそうは感じられないのです。」私は惨めな気持ちでその場を後にしました。私は失敗したと思いました。モルモン経に対する私の気持ちを牧師にわかってもらうことができなかったからです。

私は探求を続けました。それでもときどき中断しなければなりません。当時抱えていた精神的な苦悩はとても表現できません。私はモルモン経が真実かどうかどうしても知る必要があったのです。何度も聖書を読んだりモルモン経を調べたりして、このふたつを比較研究しました。

私はもう一度牧師と話をすることにしました。長い討論の中で、イエス・キリストの福音を一度も聞かずに死んだ人々はどうなるかということも尋ねました。牧師は私の目をまっすぐ見てこう言いました。「クリフォード、そのような人たちは死んで地獄に落ちるんだよ。」再び私は暗たんとした気持ちでその場を去りました。

ある日、私はモルモン経をくれた宣教師が言ったことを思い出しました。地元の末日聖徒の支部長が町で仕事をしているので、もし何か疑問があれば、この支部長のところへ行ってみようということでした。そこで私はマーレー・コンレー支部長を訪ね、いくつかの質問をしてその答えに満足しました。

その後、プロテスタント教会の何人かの会員たちがやって来て、私はだまされているのだと言いました。次の夜は、牧師夫婦がやって来ました。しかし、私がマラキ書4章5—6節を説明してほしいと頼むと、牧師は怒ってこう言いました。「君はモルモンに洗脳されてしまったんだ。これ以上私にできることは何もない。」

ある夜、私はニューフェイス第三書14章13—14節を読みました。「狭き門より入れ。亡びに行く門は大きく道は広くしてそこより入る者多く、永遠の生命へ行く門はせまくしてその道は細くこれを見出す者少きが故なり。」

私は、いすから立ち上がり外へ出ました。やみの中でひとり立っていると、狭き門の前に立ち、中に入るのを恐れて行きつ戻りつしている自分自身の姿が見えました。その瞬間、これが私の道だと悟りました。その夜、主が私に語りかけてくださったのです。人と人が互いに語り合うようにではなく、静かな細い声で語りかけてくださ

ったのです。「あなたはどうするつもりですか」と。

私はバプテスマを受けたいと伝えるために、コンレー支部長のところへ行きました。しかし、支部長はソルトレークシティへ行って留守でした。バプテスマを施すことができるのは支部長だけだろうと思い、私は1週間後にまた来ることにしました。

その1週間の間、サタンが私の行く手にまたつまずきの石を置きました。以前にも増して疑いの気持ちが起きたのです。もう1度最初から出直す必要なんかあるのだろうかかと迷いました。3日間その疑いに悩まされた後、私はコンレー支部長がくれたゴードン・B・ヒンクレー副管長の著書「回復された真理」を読み始めました。すると以前モルモン経が真実だと証してくれた聖霊が、今度はまた、末日聖徒イエス・キリスト教会が主の真実の教会であることを証してくれました。

コンレー支部長がソルトレークシティから戻ると、私はバプテスマを受けたいと申し出ました。1970年10月19日、バプテスマを受けるためテキサス州ギルターへ車を走らせているとき、私は支部長にこう尋ねました。

「バプテスマを受けただけでは救われず、終わりまで耐え忍んで初めて救われるのだと思いますが、私は聖典を正しく理解しているのでしょうか。」

支部長は、「まったくそのとおりですよ」と答えてくれました。

私はバプテスマの水に入るまで泣いていました。この教会は真実であるとともに強く感じました。バプテスマの水から上がると、さらに10倍も強くそれを感じました。

その後、何度も考えたものです。「ほかにも善良なクリスチャンは大勢いるのに、なぜ私だけが真理を知らされたのだろうか。」すると、その度に次の聖句が心に思い浮かんでくるのでした。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(ルカ11:9)

バプテスマを受けて何週間かしてから、私はもう一度以前より強く聖霊を通して証を受ける機会に恵まれました。ある朝、午前3時ごろ、私は床の上に身を起こして流れる涙で顔をぬらしていました。モルモン経とこの教会が真実であることを聖霊が強く証していたので、私はこう言いたいほどでした。「主よ、もう十分です。十分にわかりました。モルモン経とこの教会は真実です。」

私は、モルモン経が真実であることを全身全霊で理解しています。そしてこの証によって、私は生ける神と御子イエス・キリストへ、そして生ける予言者をいただく主の教会へと導かれたのです。□

*クリフォード・E・コールマン：テキサス州オデッサステークキ部ミッドランド第3ワード部所属。



「箱舟を出るノア」ハリー・アンダーソン画

洪水が引いて乾いた地が現われ、人が住めるほどになると、ノアとその家族、そしてすべての動物が箱舟を出て地を満たした。神は契約のしるしとして虹を空に置き、もはや洪水によってすべての肉なるものを再び滅ぼすことはしないとされた。ノアとその家族は祭壇を築いて、主に感謝のいけにえを捧げた。(創世8-9章参照)



セント・トマス島に住む若人は、カリブ海に
浮かぶこのユニークな島の生活を楽しみ
ながら、互いに助け合い、喜んで福音を伝えて
いる。(「みんな大丈夫!」参照)

神の栄光を まごころもて仰ぎみて

アジア地域会長会会長
ダグラス・H・スミス

しばらく前に、ある魅力的な独身の教会員の助けを受けたことがあります。この青年は著名なホテルのフロントマネージャーでした。身なりは非の打ち所がなく、作法も申し分のないものでした。確かに彼は、その重要なポストにあって十分な力量を備え、有能な働きをしていました。「私は教会から何かと助けられているので、あなたのお世話をするように仰せ付けております。」こう言って、非常に気を配りながら、私を部屋まで案内してくれました。こうして、このフロントマネージャーは、ホテルの接待に落ち度がないことを確認すると、次のように言いました。「何かご用がありましたら、いつでも何なりとお申しつけください。」

アジアの地域にはこのような好感の持てる独身者が大勢います。彼はビジネスの世界で非常に名誉ある地位を得ています。それまで十分な訓練を積んで、現在の仕事に就いているのです。資格を身につけ、有能であり、魅力があります。ですが、たぶん少し成功しすぎていて、教会が彼をどれほど必要としているか、信仰あついで末日聖徒の女性と結婚して自分の家庭を持つことがどれだけ人生を変えるかということまでは考えつかないかもしれません。

多くの同胞たちが主がなされた約束の恵みにあずかるためには、アジアに

いるすべての独身の教会員の働きがどうしても必要であると、私は確信しています。

私は、日本のある地方部の独身成人グループが立てた目標を読んで、うれしく思いました。彼らは、今年は、次の6つのことを目指して努力すると決心しています。

1. 各支部の独身者グループが交替で、四半期に1度、地方部のファイヤサイドを開く。このファイヤサイドの目的は独身成人に必要な霊的なレッスンや活動を行なうことである。
2. 半年ごとの地方部大会で、毎回、独身成人部会を設け、独身者の積極的な参加、個人の標準の維持、神殿結婚の準備、召しを全力を尽くして果たすことなどを強調する。
3. 独身成人の指導者を召すように、各支部長に働きかけていく。
4. アジアにおいて、ほかの独身の教会員との一体感を強め、コミュニケーションを促す意味で、家庭の夕べ、神殿の団体参入、ファイヤサイド、社交活動などを計画するように、各支部の独身成人指導者に働きかけていく。
5. ファイヤサイドや社交活動に、ほかのワード部／支部やステーキ部／地方部からの参加を呼びかける。
6. そのほかの独身成人に対しても活発化への働きかけやフェローシップを行なったり、福音を宣べ伝えた

りする。

教会の創立以来、独身成人が発揮してきた力について考えると、これらの目標がアジアの教会の発展に大きく貢献するものであることがわかります。これらの目標が実行に移され、同時に目標達成のために働く過程で独身の男性と女性がお互いに知り合い、適切な伴侶を見いだせるように心から願っています。アジアにはイエス・キリストの福音に改宗した美しい女性が大勢いることを私は知っています。彼女たちは永遠の伴侶を得ることの価値を理解し、その大きな祝福にあずかれるように祈り続けています。その一方でまた、将来良き夫、頼もしい父親になれる、正直で献身的な、立派な独身男性がいることも私は知っています。主に仕える正義感あふれた次代を担う人々を育てる教会はそのような男女の結び付きを必要としています。私は若い人々に勧めたいと思います。教会員としての祝福をみずからと子孫の上にもたらすために、福音に従って生活し、福音を愛してください。そして、主の宮居で結婚してください。そのようにするならば、皆さんが子供をもうけ、福音の真理に従って生活することを教えていくときに、キリストの光が自分の中で次第に大きくなっていくことに気づくでしょう。

独身女性の中には、結婚するために

は教会を去る必要があると考えている人々がいます。彼女たちは、神の最大の賜は受けられない、ということがわかっていても、人生をひとりで生きてくはないために教会員でない相手に満足しなければならないと考えています。しかし、永遠の生命という祝福をだれもあきらめるべきではありません。永遠の生命がもたらす祝福は皆さんのためにあるのです。天父の霊の子供たちの中できわめて優れた霊が、この時期に地上に来るように取っておかれていました。すでに改宗した人々や、現在、改宗しつつある人々です。そのような人々が皆さんの周りにいることでしょう。彼らは教会の立派な指導者になる人々です。福音を宣べ伝え、聖徒を全き者とし、死者を贖うという大なるみ業を果たすことでしょう。そのような人々の中から自分にふさわしい結婚相手を見つけてください。

フロントマネージャーを務めている私の若い友人は、教会のために尽くさなければならないことを理解していました。皆さんも同じだと思います。ホテルでの快適な部屋や、その時々に必要な職業上の技術を提供するというのも必要ではありますが、それだけでは十分ではありません。むしろ、皆さんは生涯イエス・キリストに忠誠を尽くすという義務を教会に負っているのです。皆さんは、主が教えられた原則に従って生活する必要があります。創造力を働かせて、完全な生活を送れるような目標を立て、人々の力となり祝福を授ける必要があるのです。皆さんは地上における神の王国建設のためにみずからの才能と能力のすべてを、そして自分自身を捧げる必要があるのです。

私はアジアにおける教会が大きく発展する姿を心に思い描くことができます。すべての独身男女が主に「いつでも主にお仕えする用意ができております」と述べ、その霊的な力、知性、思いやりに満ちた心を尽くして末日聖徒イエス・キリスト教会のみ業を推し進めるなら、教会は大きく発展するでしょう。どうか皆さんが「神の栄光をまごころもて仰ぎみて」(教義と聖約4:5)、日々の生活を送られますように。

神権の力

静岡ステークス沼津支部

佐々木美津子

女性ならだれもが、いつかは自分の子供を自分の腕で抱いてみたいと思うでしょう。私もそのひとりでした。私は以前、結婚したら、何事もなく赤ちゃんを産むことができるだろうと思っていました。しかし、結婚してすぐに授かった子供は、私のおなかの中で4カ月生きただけで、この世での経験をすることもなく、私たちのもとを去っていきました。そのときなぜそのような試練に遭わなければいけないのか、どうして子供は去っていったのかと悩み、主に何度となく祈りを捧げました。つかの間の喜びの後のあまりにも悲しい試練のときでした。主はその試練の中で私たち夫婦に様々なことを教えてくださいました。

私は、子供がおなかの中にいるときに母親としての喜びや夢を感じました。また子供を迎えるためには、もっと準備が必要だったことを知りました。私の霊性、知識、そのほかあらゆる面で準備をしなければなりません。そして1年の歳月が流れ、再びおなかの中に子供を授かりました。私は、そのときから毎週、主人から神権の祝福を受けました。主人は祝福をするたびに、私にもっと準備をするように言いました。その言葉は確かに主から与えられたものであり、私はそれに従って霊的な準備や、どのような母親になるべきか、子供はどう育てるべきかなど、様々な準備をし、主人ともよく話し合いました。



ところが何か月かたって突然出血し、医師に安静を言いわたされました。そのつらさを乗り越えることができたのは、神権を通して得られた神様からの愛と平安と励まし、そしておなかの中で子供が元気に動いてくれることと、神権を尊び正しく行使してくれる主人の助けがあったからです。子供のことで何度か心配なことがありましたが、神権の祝福を受けると必ず平安に満たされ、私は次第に神様にすべてをゆだね、みこころになりますように、と願うようになりました。こうした経験を通じて、神権の力の偉大さを私は心から知るようになりました。

1989年5月、無事に長女が誕生しました。そのときわかったのは、子供に必要な酸素と栄養を送る私の体の組織が、普通の人の半分しかなかったことです。そのため子供は未熟児として産まれすぐに設備の整った病院に運ばれてしまいました。担当の医師は「あなたのような場合はほとんどが流産してしまいます。子供が無事産まれたのは奇跡です。あなたはついていますね」と言われました。

このとき、神様は確かに生きておられ、このことが神様の力以外の何ものでもないと感じたのです。子供は私たち夫婦にこれからも親としてさらに成長する機会を与えてくれるでしょう。私たちは彼女を祈愛(いのり)と命名しました。それは、神様の見守りと周りの方たち一人一人の熱心な祈りと深い愛情の中で無事に産まれてきたからです。子供は宝です。財産です。こんなすばらしい祝福をくださった神様に感謝の気持ちでいっぱいです。世の中には私よりもっともつつらい経験をされ乗り越えてこられた方々がたくさんいらっしゃいます。その方々に比べれば、私の経験はとてもささいなことだったかもしれません。しかし、私はこの小さな経験が神権に対する証と神様への信仰を強めるのにととも大きな支えとなったことを神様に深く感謝します。神様は確かに生きておられ、この末日聖徒イエス・キリスト教会は神様の権能が与えられている唯一まことの神様の教会であることを心からへりくだり証いたします。

静かな細い声

ホ・ホキユン

香 港の病院の廊下の片隅で、私は主に祈りを捧げていました。母が癌で死にかけていたのです。母は長いこと、随分苦しんでいました。医師からは、もうこれ以上手の施しようがなく、あとは死を待つばかりだと告げられていました。母がこのような状態で入院している間に、父は心臓発作に襲われ、母のいる病院から30分ほど離れた別の病院に入院していました。私は父の容態が峠を越えるまで、父に付き添っていました。

そして今は、母に付き添い、8時半に交替に来てくれることになっていた妹を待っていました。私は祈りの中で、母の苦痛が早く収まるように、けれども、私たちきょうだいから一度に両親を取り去らないでくださいと、主にお願いをしました。少なくとも2、3年は父が生き続けられるようにしてくださいと祈ったのです。

時計を見ると、ちょうど午後8時半でしたが、妹はまだ来ません。すると、「お父さんのところへ行きなさい。非常に危険な状態です」という声がしました。ほんの2、3時間前に別れたときは何ともなかったのに、そんなはずはないと思いました。それに妹がまだ来ていなかったのに、その場を離れることができません。けれども、また警告の音がしました。「お父さんの命を救うために、すぐに行きなさい。」どうしたらよいだろう。父の入院している病院は、9時以降はたとえ家族であっても面会が許されないし、タクシーで

行ってもここから30分はかかるだろう……。私は考え込んでしまいました。またもや3度目の同じ声が聞こえました。

私は父の命をあと少なくとも2、3年は延ばしてほしいと再び主に祈り、エレベーターにかけ込み、急いで父のいる病院へ向かいました。1階で母の看病に来た妹に会いました。「お父さんが危ないの」そう言いながら、外へ飛び出しました。そして私は夜のやみに包まれた暗い病院の入り口にたどり着き、何とかして中へ入りました。

看護婦の詰め所で、父にぜひ面会させてくれと頼むと、規則にもかかわらず、許可してくれました。懐中電灯を照らして父の病室を確かめ、部屋に入って入り口近くのベッドを通り過ぎようとすると、そこにいた患者さんが、何か言って父のいる3番目のベッドを指しました。見ると父は上体を起こし、息が詰まって苦しそうにあえいでいます。顔は青白くなりかけています。酸素チューブがはずれて、窒息しかけているのです。急いで看護婦を呼び、酸素チューブをつけてもらおうと、父の顔色に赤味がさし始めました。

それから母は2日後に亡くなりました。主は私の願いを聞き入れ、2年間、父の命を延ばしてくださいました。父が亡くなったのは、母が亡くなった日からちょうど2年後の、1978年2月23日のことでした。

祈りというこの特権に、私は心から感謝しています。



「求めよ、さらば与えられん」

香港伝道部 マーガリート・R・スミス

香港で働く中国人宣教師のアイビー・マン姉妹とジャニタ・チャン姉妹は、古い求道者の紹介カードを調べていました。この中から見つけたある少女に会ってみたいと思いました。それはみたまの導きによるものでした。ふたりはその少女に会い、レッスンをすることができました。この求道者は福音を聞いてとても喜び、バプテスマを受けたいと申し出ました。彼女の目が改宗の光に輝くのを見たふたりの宣教師は、幸せな気持ちで胸がいっぱいになりました。

ところが、よくあることですが、この少女の家族は娘がバプテスマを受けるのを許してはくれなかったのです。喜びは失望に変わりました。家族はテキサス州ヒューストンへ転居することになっていたのに、彼女の決意を家族に理解してもらえないように助ける時間は、あまり残っていませんでした。結局、バプテスマを受けられないまま、その少女は家族と共に去って行きました。

マン姉妹は、テキサス伝道部へその少女、ロザンナ・ブンの名前を送りました。テキサス伝道部では、香港から届いた紹介の手紙をもとに、香港出身

の宣教師であるエリン・タン長老とその同僚に、彼女を見つけるよう手配しました。こんなにしてまで教会が娘のことを心にかけてくれているのを知った家族は、宣教師のレッスンを聞くことを許し、とうとうバプテスマを受けることを承諾してくれたのです。

ロザンナにバプテスマを施したエリン・タン長老は、マン姉妹に次のように書き送っています。「バプテスマを望んだこの若い姉妹に、レッスンをやり直す必要はほとんどありませんでした。彼女は、香港で宣教師から受けたレッスンを通して、福音のメッセージをととてもよく理解していました。」

これは数カ月前にあった話ですが、最近になってロザンナの弟もバプテスマを受けたという知らせが、タン長老から私たちの元に届きました。それだけではありません。ロザンナの両親も今レッスンを受けているというのです。マン姉妹は、宣教師としての喜びを存分に味わうことになりました。これ以上幸せなことはありません。主はご自身の方法で、ご自身が定められた時に、忠実な宣教師を助けてくださるということがわかったのですから。

み終わりました。とてもおもしろかったです。それから、モルモン経を1日に35ページずつ読み、15日で読み終わりました。次は新約聖書と旧約聖書、そして教義と聖約です。読み始めたのが、1988年12月13日。読み終えたのは、1989年2月15日でした。四大聖典を韓国語で読み終えたとき、父はほくに、今度は4月19日のほくの11歳の誕生日までに、英語で全部読んでみないかとチャレンジしました。誕生日までに全部読めるかどうかわかりませんでした。が、とにかく一生懸命に読みました。あまりおもしろいので、モルモン経を学校へ持って行って、休み時間や掃除の時間に読んだこともありました。このようにして読み続け、誕生日のちょうど前日に読み終えることができたときには、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

ひとつ、大事なことを忘れていました。ほくは韓国語の聖書を持っていなかったのに、父の聖書を借りて読んだのです。この聖書が気に入ったので、誕生日のプレゼントにそれと同じ聖書を買ってくれるように父に頼みました。もちろん父はそのとおりにしてくれました。そして最初のページに次のように書き添えてくれました。「愛する息子へ、おめでとう、聖典を2度も読破したね。」ほくはこの言葉がとても好きです。

聖典を読みながら、ほくはたくさんのことを学びました。ギデオンは立派だと思いました。ほかにも興味深いことがいろいろありますが、それは絵入りの聖典物語に出ていることなので、ここでは触れないことにします。子供のための聖典物語は、聖典を読むのにとっても役立ちました。ほくたちがアメリカに住んでいたとき、弟と一緒に絵本をたくさん読みました。筋をほとんど覚えてしまったくらいです。そのような習慣があったので、聖典を読むときにも、絵入りの聖典物語を見て、その光景を頭の中に描きました。たとえば、モルモン経の中にニーファイ人が出てくると、聖典物語の絵に描かれていたニーファイ人を想像しました。世界中の子供たちも、絵入りの聖典物語を学ぶとよいと思います。

聖典を読む

ジェイコブ・キョン・フーン・チョイ

ほくは姉さんのパールの模範を見て聖典を読み始めました。キンボール大管長は夜、石油ランプの光で聖典を読み通したと、父は教えてくれました。その言葉を聞いて、姉さんのパールがさっそく聖典を読み始めたのを、ほくはうらやましく思っていました。ある日、父とふたりで話していた

とき、ほくは姉さんのように聖典を読みたいと思っていると言うと、それはよい考えだと父は言いました。ほくは姉さんやキンボール大管長の記録を破りたかったのです。そのとき、まだ10歳だったほくには、暇な時間がたくさんありました。

まず最初に高価なる真珠を2日で読

香港で開かれた姉妹宣教師大会 自己の可能性を最大限に伸ばす

マーガリート・R・スミス

「自己の可能性を最大限に伸ばす。」これは、1月30日、香港の伝道部で行なわれた姉妹宣教師大会のテーマです。チャン・チ・リン姉妹、オウ姉妹、サム姉妹、テート姉妹、パディワン姉妹が証を述べました。パーカー姉妹は私たちを励まし、常に靈性を高め、目標を立て直し、前進するように助言してくれました。オウ姉妹は、自分の伝道が思うようにいっていないと感じていましたが、妹がバプテスマを受け、宣教師になりたいと望んでいることに力づけられた、と話してくれました。彼女の母親も、今、レッスンを受けています。

リバート姉妹は、もし私たちが伝道部の規則に従うならば、私たちの内に

秘められた数々の可能性を発揮できると、指導してくれました。すなわち、生涯役立つ技術を身につける、公私にわたる豊かな人間関係を築く、目標を定め、計画を立て、評価する、時間やお金を管理する、健康を維持し、ストレスに対処する、などです。そして最後に王妃エステルのお話を引用し、私たち一人一人に次のような訓戒を与えてくださいました。「皆さんは、まさしくこのような時のために選ばれ、この場所で働くように召されたと言ってよいでしょう。」

タイ姉妹も、姉妹宣教師に対する感謝の気持ちにあふれる証をしました。また、おいしい昼食を用意してくれました。

昼食後、ロスタ・ゴードンスミス姉妹がよい身だしなみについて、具体的なレッスンをしてくれました。また、ベニング姉妹は、身なりをふさわしく整え、同僚を愛し、伝道の規則を守るように助言し、自分が伝道中に得た信仰を鼓舞する経験についても話してくれました。そして、こう述べました。「伝道部長を愛し、その指示に従ってください。種をまくにしても、養い育てるにしても、収穫するにしても、いずれの役にあっても皆さんはみ業の一端を担っているのです。」

この大会を通して、私はいろいろなことを学び、励ましを得ることができました。タイ伝道部長ご夫妻に感謝しています。

お知らせ

ローカル

1990年度 「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは、1990年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は、早目にお申し込みください。

所在地：埼玉県入間郡
毛呂山町長瀬1313

1. 墓地永代使用料
支払い方法
1区画 285,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金4,750円以降毎月4,750円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料
年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします)
3. 申し込み方法
以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
(1) クモラの丘霊園使用申し込み書
(2) 住民票
(3) クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
(4) 銀行自動振替手続き書類
4. 今年度申し込み期限
1990年12月31日まで
5. 墓所の指定
申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。
6. 初回金および
管理料の振込先
三和銀行青山支店 普通預金口座 219499
クモラの丘霊園 代表 岡本 亮
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(440)2351(代)
7. お問い合わせ

10人の教会幹部、 七十人第二定員会に召される

第160回年次総大会土曜日午後の部会で、七十人第二定員会に10人の教会幹部が新たに召された。また、大管長会は、これまで大管長会特別顧問として16年間務めてきたデビッド・M・ケネディとその補佐ブレイン・H・チューラーの解任を発表した。

10人の新任教会幹部は、今後5年間の任期を務める。

新たに召された七十人第二定員会会員



エドワルド・アヤラ



リグランド・レイン・カーチス



クリントン・ルイス・カトラ



ロバート・ケント・デレンバック



ハロルド・G・ヒラム



ケネス・ジョンソン



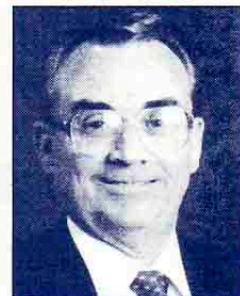
ヘルベシオ・マーチンズ



リン・A・ミケルセン



J・バラード・ウォッシュバーン



デュレル・A・ウルジ

エドワルド・アヤラ

52歳。チリのサンチアゴ出身。教会教育部指導主事、地区代表、ウルグアイ・モンテビデオ伝道部伝道部長などを務めた。

リグランド・レイン・カーチス

65歳。ソルトレークシティ出身の歯科矯正医。ホラデー北ステーク部の祝福師および神殿職員を務めていた。中央若い男性副会長、フロリダ州タラハシー伝道部伝道部長などを歴任。

クリントン・ルイス・カトラ

60歳。マウンテンベル社を退職後、服地店を経営。デンバーおよびボイシステーク部ステーク部長、地区代表、ワシントン州シアトル伝道部伝道部長などを歴任。

ロバート・ケント・デレンバック

52歳。ソルトレークシティ出身。アメリカン・シナジー社副社長。地区代表、ドイツ・ミュンヘン伝道部伝道部長などを歴任。

ハロルド・G・ヒラム

55歳。アイダホ州アイダホフォールズ出身の歯科矯正医。地区代表、ポルトガル・リスボン伝道部伝道部長などを務めた。

ケネス・ジョンソン

49歳。イギリスのノーウィッチ出身。保険仲介業。ステーク部長、地区代表などを歴任。

ヘルベシオ・マーチンズ

59歳。ブラジルのリオデジャネイロ

出身。リオデジャネイロ州立大学助教授。副ステーク部長、ブラジル・フォルタレザ伝道部伝道部長などを歴任。

リン・A・ミケルセン

54歳。アイダホ州アイダホフォールズ出身。自営業。地区代表、コロンビア・カリ伝道部伝道部長などを歴任。

J・バラード・ウォッシュバーン

61歳。アリゾナ州ページ出身。医師。地区代表、アリゾナ州フェニックス伝道部伝道部長などを歴任。

デュレル・A・ウルジ

63歳。カリフォルニア州ストックトン出身。経営者。ストックトンステーク部ステーク部長、アリゾナ州テンピー伝道部伝道部長などを歴任。

新伝道部長の紹介



ウォーカー伝道部長ご夫妻



宇田川伝道部長ご夫妻



福田伝道部長ご夫妻



ラーセン伝道部長ご夫妻



菊地伝道部長ご夫妻

日本東京南伝道部

ウィリアム・ラッセル・ウォーカー伝道部長(45歳)。ユタ州サンディー、コットンウッドクリークステーク部所属。召しを受けたときは、若い男性会長であった。高等評議員、監督および副監督、大祭司グループリーダー、セミナー教師、長老定員会会長、複合地区福祉委員などを歴任。1964年から1966年までは、日本で伝道に従事した。ブリガム・ヤング大学で学士号を取得し、投資信託会社の取締役を務めた。カナダのアルバータ州レスブリッジ出身。両親は、J・ハリス・ウォーカーとベス・ラッセル・ウォーカーである。ビッキー・コリーン・バン・ワーゲネン姉妹と結婚し、5人の子供に恵まれている。

ウォーカー姉妹は、若い女性副会長、ステーク部初等協会副会長、ワード部初等協会会長および副会長、図書委員、若い女性副会長、扶助協会および初等協会教師などを歴任。ユタ州ソルトレークシティ出身で、両親はハロルド・アール・バン・ワーゲネンとルース・ベアトリス・サリスベリー・バン・ワーゲネンである。

日本岡山伝道部

宇田川精一郎伝道部長(38歳)。召しを受けたときは、東京西ステーク部多摩ワード部に所属し、副ステーク部長を務めていた。副伝道部長、高等評議員、監督、支部長を歴任。1975年から1977年まで名古屋伝道部で伝道に従事した。東京大学で学士号を取得し、教会管理本部翻訳課特別プロジェクト・アシスタントマネージャーを務めてい

た。東京都品川区出身。両親は、宇田川精司と古屋千代子。眞弓夫人との間に4人の子供に恵まれている。

宇田川(旧姓 礎)眞弓姉妹は、ステーク部初等協会副会長、ステーク部宣教師、ワード部扶助協会会長、初等協会会長、若い女性会長などを歴任。東京都渋谷区出身で、両親は礎照美と野内京子である。

日本仙台伝道部

福田眞伝道部長(54歳)。召しを受けたときは、東京ステーク部所沢ワード部に所属し、監督を務めていた。ステーク部長、高等評議員、長老定員会会長、セミナー教師、地区幹部書記などを歴任し、1956年から1958年まで北部極東伝道部で伝道に従事した。生命保険会社代表取締役社長を務めていた。仙台市出身。両親は、福田栄之祐と松原けいである。

福田(旧姓沼野)康子姉妹は、ステーク部扶助協会および初等協会会長、ワード部若い女性および初等協会会長などを歴任。夫が今回の召しを受けたときは、ワード部扶助協会副会長の任にあった。東京都北区出身で、両親は、沼野正二と石井久子である。

日本沖縄伝道部

エバン・アラン・ラーセン伝道部長(55歳)。ハワイ州ホノルルステーク部マノアワード部所属。召しを受けたときは、地区代表であった。ステーク部長、地方部長、支部長、日曜学校会長などを歴任。1955年から1958年まで北部極東伝道部で伝道に従事した。さら

に、1964年から1968年までは日本で建築宣教師として働き、教会の総合施設部門の代表を務めた。ユタ州フェアビュー出身。プライオン・グレンとガートルード・アルディバ・ヨハンセン・ラーセンとの間に生まれ、エスター・ノブコ・佐藤と結婚。3人の子供に恵まれている。

ラーセン姉妹は、夫がこの召しを受けたとき、福音の教義クラスの教師であった。それまでは、扶助協会副会長、初等協会副会長、セミナー教師、若い女性アドバイザーなどを務めた。1956年から1958年まで、北部極東伝道部で伝道に従事し、1964年から1968年までは、夫と共に、日本で建築宣教師として働いた。ハワイ州のパイア出身で、両親は佐藤麻吉と伊藤タケである。

日本東京北伝道部

菊地敏伝道部長(41歳)。召しを受けたときは、札幌西ステーク部新琴似ワード部に所属し、ステーク部長の任にあった。高等評議員、支部長などを歴任。酪農学園大学で学士号を、山形大学で修士号をそれぞれ取得し、自営業を営んでいた。新潟県佐渡郡出身で、両親は菊地光雄と本間タズ子である。妃朗子夫人との間に6人の子供に恵まれている。

菊地(旧姓金崎)妃朗子姉妹は、ワード部およびステーク部扶助協会会長、また扶助協会、初等協会、日曜学校などの教師を歴任。夫が伝道部長の召しを受けたときは、ワード部扶助協会会長であった。北海道室蘭市出身で、両親は、金崎喜九雄と小玉トミヨである。

再組織されたステーク部長会

東京南ステーク部長会

前田修ステーク部長の解任に伴い、昨年11月26日、七十人第一定員会会員アドニー・Y・小松長老管理の下に行なわれた東京南ステーク部大会で、新たにゴードン・A・ネベカー兄弟がステーク部長に召されました。第一副ステーク部長には新たに徳田和義兄弟(写真左)が、第二副ステーク部長には引き続き尾形守兄弟(写真右)が召されその任に当たります。



しています。

息子は自閉症という病気で、通常のインターナショナルスクールへ通うことはできません。だからと言って日本語で障害者の教育を受けるのは息子にとっては大変なことなので、何とか英語で適切な教育が受けられるように願っていました。最近になって、障害者が英語で教育を受けられる学校が、恵まれてバプテスト教会の厚意によりその一室を借りて開かれることになりました。生徒は全員で6人です。

このような特別な学校に子供を通わ

せる親が、高額な教育費をすべて負担することはとてもできるものではありません。そこで妻は、学校の運営資金を調達するために必死の努力をしています。たとえば劇を主催したり、自宅でクリスマスパーティーを開いたりしてその切符代を全額寄付したり、古着を売って、その収益を寄付したりしてきました。このような活動を行なううえで、同じ地域に住んでいる日本人の方々がみずから手伝いを買って出、共に働いてくれたのがとても印象的でした。このような人を通して、日本にも教会員に限らず親切な人がたくさんいることがわかりました。

教会員である私たちは、キリストの愛についてよく知っているはずですが。それを近所や職場の人に行ないを通して表わすのは、私たちの義務ではなく、むしろ助けたいという気持ちを忘れずにキリストの愛をよく示すことができるよう心から願っています。(1945年生まれ)

キリストの愛を示す

東京南ステーク部
ステーク部長
ゴードン・A・ネベカー

19 65年夏に専任宣教師として初めて来日したときには、日本には伝道部がひとつあるだけで、ステーク部はありませんでした。その年の夏、聖徒たちは自身のエンゲウメントを受けるため、多大な犠牲を払ってハワイ神殿に行く準備をしていました。伝道中同僚とふたりで作った曲の中に「聖徒はやがて成長し、この地に神殿が建てられる、その日の喜びはどれほど大きなものだろう」という歌詞があります。当時の私にとってはその日が来るのは長い年月を経た後の夢のような気がしていましたが、今ではそれが現実となっています。

今回は4度目の来日で、1985年から東京に住んでいます。1979年に結婚して以来、銀行に勤めている関係でずっと香港か日本に住み、8歳になる娘も6歳になる息子もほとんど日本で生活



ネベカーステーク部長ご夫妻

沖縄那覇ステーキ部長会

去る1月21日、七十人第二定員委員会マーリン・R・リバート長老の管理の下に行なわれた沖縄那覇ステーキ部大会で、十年余にわたりステーキ部長として責任を果たしてこられた長嶺顕正兄弟が解任され、新たに屋富祖昭兄弟(写真中央)が召されました。第一副ステーキ部長には引き続き大城朝次郎兄弟(写真左)が、第二副ステーキ部長には西銘務兄弟(写真右)が召されその任に当たります。

「神は私の生命、 私の光、私の喜び、 私の救い」

沖縄那覇ステーキ部
ステーキ部長
屋富祖昭

マーリン・R・リバート長老から「今主はあなたを新しいステーキ部長に召されました」と言われたとき、余りにも重い責任のため圧倒され、何も言うことができませんでした。しかしリバート長老がやさしい笑顔で私を見つめておられる姿に主のみたまを感じ、「はい、喜んで全力を尽くします」と返事をしていました。

長嶺顕正前ステーキ部長はこれまで永年にわたり、確固たる信仰と愛、熱心さと忍耐力、従順、奉仕、犠牲、立派な家庭を築き上げることなど、私たちに数多くの模範を示してこられました。この模範と尊い伝統を守り継承していくことは、私たちに課せられた大きなチャレンジです。

私が1歳のとき第二次世界大戦が勃発し、3歳のころ父が戦死しました。母がひとり寂しく涙を流している姿を見て、私は「お母ちゃん泣かないで。ぼくが大きくなったら親孝行してあげるから、泣かないで」と言ったそうです。母はその言葉に励まされて体の不自由な姉と幼い私を育てるために、文字どおり血のにじむような生活を送っ



てきました。日本人全体にとっても一番苦しい時代だったのではないのでしょうか。しかしそんな中であって、どんなに貧しく、苦しくとも、不思議と母はいつも元気で、喜びに満ちていました。何をするにも喜びをもって行っていました。そんな母の影響を受けて、私も毎日喜びを探して生活していました。以来、私の人生のモットーは「喜び勇め」(IIニーフай10:23)となりました。

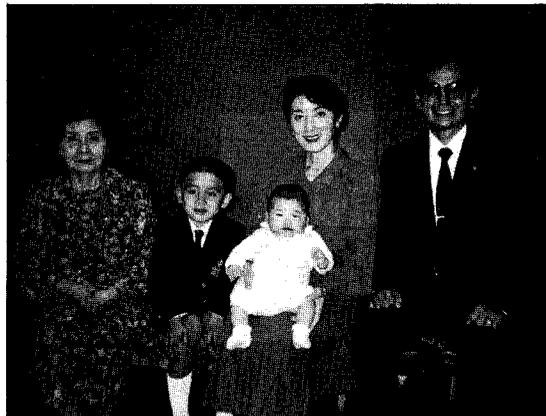
大きくなるにつれて、私は心からの友人を得たいと思うようになりました。いつでも、どこでも、何でも一緒にできる無二の親友が欲しい、また自分もそう言われるようになりたいと強く望むようになりました。忘れもしません。1958年12月5日、街頭でふたりの宣教師に出会いました。当時私は外人に対してあまり良い印象を持っていませんでした。しかし宣教師の親しみやすさと礼儀正しい態度に触れ、親友になれそうな気がし、その日の夕方家庭集会の約束をしました。

初めてのレッスンで最初の示現について説明されました。心の中に喜びが満ち、この出来事は真実であると証を得ることができました。それからは毎週喜んで集会に集い、福音を学びました。翌年1月10日、台風之余波で波や風が強く、バプテスマを延期しようと言う宣教師に「どうしてもきょう受けさせてほしい」と頼んで、高波の中、何回も儀式をやり直した末にやっとバプテスマを受けました。

バプテスマを受けてからは主のみこころを一層知りたいとの思いから、モルモン経を学ぶことに集中しました。あるときページを開いて読み始めると5分もたたないうちにまぶたが重くなってしまいました。しかし、「人類が現世に在るのは幸福〔英文では喜び〕を得んためである」(IIニーフай2:25)という言葉が胸に迫り、目が覚めました。この経験を通して、主が喜ばれることは何でもやり通したいという気持ちがますます強くなり、たびたび断食をして真剣に主に祈り、伺いを立てました。すると心の中に「われは、義しくわれに仕えんと欲する一つの清き民をわがためにおこさんと欲す」(教義と聖約100:16)という聖句が浮かんできました。まさに主がこの時満ちたる神権時代に驚嘆すべきみ業をこの地に行なおうとしておられることを感じました。

「幾千幾万の人々の心は、天より注がるる祝福によりて真に喜びを覚え」ます。(教義と聖約110:9)主から「汝らは喜びに満ちあふれてわが父の王国に座を占め、御父がわれに完全なる喜びを与えたもうたるごとく、汝らの喜びもまた完全なるべし。また汝らはわれと同じ者になるべし」(IIIニーフай28:10)と最後に言われるまで、一人一人を大切に、主を信じ、頼り、すべてをお任せして、全力を尽くして召しを果たしていきたいと思えます。「神は私の生命、私の光、私の喜び、私の救い」です。(アルマ26:36)私を導いてくれた宣教師や愛する母、妻や息子たちに感謝します。(やぶそ・あきら 1940年生まれ)

屋富祖昭兄弟とご家族



「主は愛する者を訓練し… むち打たれるのである」

札幌ステーキ部岩見沢支部

井川晃



「北海道の農業は夏だけ働けば冬休めていいなあ。」こんな言葉をよく耳にします。しかし、広大な土地を相手にきわめて短期間のうちに1年分の所得を確保しなければならぬ夏の仕事には計り知れない厳しさがあり、昼夜通して働くこともしばしばです。

農村に生まれ育った私が教会に入ってから18年、本格的に農業に携わるようになって17年が過ぎました。家業を継いだ当時は減反政策による休耕が奨励されていたので、水稲単作経営だった我が家も土地の規模拡大をしなくても増収が図れるよう、単位面積当たりの所得率の高い花作りをしてはどうかと考えました。そこで積雪のため外仕事のできない冬に2年ほど静岡のバラ園に実習に行ったのが、私のバラ作りの始まりでした。

最初はメロンや高収入の期待できる畑作物を作りながら、バラの試作を繰り返しました。趣味に作る程度では生活できず、ようやく少しずつ売上げが出てきたのは、3、4年もしてからでした。借り入れをして稲作の規模を2倍に拡大し、バラ作りの資金捻出のためメロン作りも地道に続けました。いくら働いても働いても苦しい生活でした。一般の会社に勤めてこれだけ働いたら生活はずっと楽だろうに、と思うこともありました。

そのうち運よくアメリカに4カ月ほど研修に行き、経営に対する新たな展望を抱くことができました。最後の1週間には妻も8カ月になるおなかで幼い子供ふたりを連れて渡米し、一緒にいくつものバラ園を視察すると同時に、神殿でエンダウメントと家族の結び固めを受けることができました。

帰国してからはメロン作りをやめ、米作りも休んで大幅にバラ園の規模を拡大し、何とか軌道に乗せることができました。ただひたすら成功することと福音を信じて働きました。思いどおりに行かず多大な犠牲を払ってたったひとつのことを学んだことも何度もありました。

1977年11月ごろ、春に定植したバラの苗木を半年間育て、つぼみもついて出荷を間近に控えていたときのことです。暖房機はいつもの調子で回っていたのですが灯油が1日分しか残っておらず、その夜零下7、8度の冷え込みのために多量の灯油を消費し、早朝3時ごろにはついに灯油が切れ、花は凍害で全滅してしまいました。断腸の思いで凍った花首を切り落としました。

このような失敗を繰り返しながら一つ一つ良い育て方を学んでいきます。温度、湿度、水、光線、土壌条件、肥料、これらが最適の状態になったときに最良の花が咲きます。つまりバラの品種本来の特性を十分に発揮した育て方ができれば良いのです。失敗すれば原因を突き止め、さらにその品種の特性を生かせる育て方を探し出すのです。私も最近ようやくバラが水を欲している、肥料が足りないのではないかと気が付いたことが少しわかるようになってきました。同時に、この「特性を生かした育て方」は教会の責任を果たすうえ

でも大切な考え方ではないかと思うようになりました。

昨年夏、北海道主催の花弁品評会で農林大臣賞を初めて受賞しました。それまでこつこつと地道に続けた努力がようやく日の目を見たような気がしました。ところがその好調も続かず、猛暑のために残りの半年はバラの木はすっかり弱ってしまいました。

農業はおもしろいもので、いくら一生懸命働いてもそれに比例して売り上げが伸びるわけではありません。まじめに働いても天候が悪ければまったく報われません。福音を学んで常に喜びに満ちている生活が理想ですが、現実には経営が苦しく、教会の責任を大変な重荷に感じることもあります。教会員になって祝福がないのはなぜかと思うこともありますが、そんなときには「主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」(ヘブル12:6)という聖句を思い出します。そしてこれも鍛えられるための試練と受け止めるなら何とか克服できそうに思えてきます。日曜日に教会に行くことは豊かな生活を送る基礎となるような気がします。私は今、農業を営みながら信仰生活が送れることを感謝しています。(いがわ・あきら 1941年生まれ、第一副支部長)

井川晃兄弟は1989年7月の北海道主催の花弁品評会で農林大臣賞を受賞した。共に働いた妻の恵美子姉妹は同年、農業雑誌「家の光」12月号北海道版に、『バラ園の歌人主婦は6児の子育てに奮闘中』という記事が掲載された。以下は恵美子姉妹の作った短歌の一部である。

背を丸め 歩く姿の 姑を見し
気丈なゆえに 何か花しく

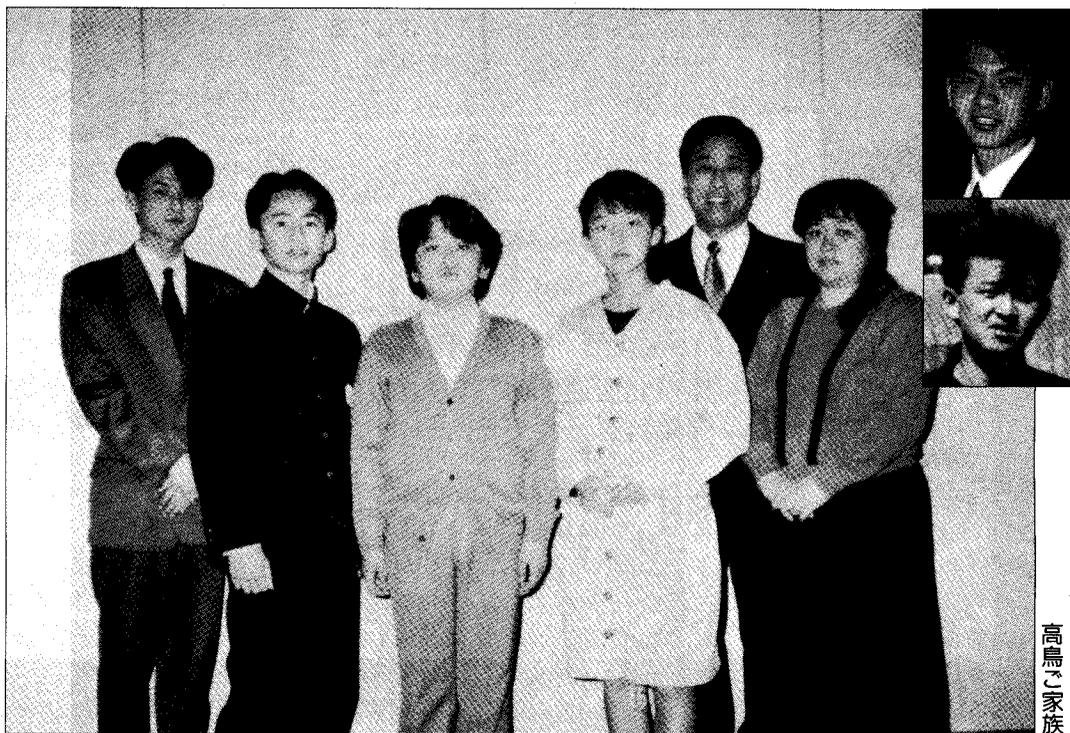
(1987年作)

激情し 子の頬打てば やわらかき
その感触に かなしみ はしる

三回忌 無心に祈る 末の子は
祖母の顔とて 知らずに育つ

(1990年作)

家族の証



高島ご家族

家族で伝道する



名古屋西ステークス部
高畑ワード部
高島雄三

15年前東京で開かれた東洋初の地域総大会で、スポンサー・W・キンボール大管長は、ポケットからお金を出して会場の青少年に渡し、預金通帳を作って伝道に出る準備をするよう言われ、また両親に対しても、子供たちの伝道資金を今からためよう提案されました。当時私は改宗したばかりで、予言者の勧告に従おうと子供たち一人一人の預金通帳を作りました。

けれども翌年支部長に召されて大任を果たすために全勢力を費やしたため、ほかのことに気を遣うゆとりはなくなり、子供たちの伝道資金まではとても手が回りませんでした。

長男が伝道に出て約1年、毎月7万円のお金を家族で仕送りしていますが、予言者に従わないとどのような結果になるかを身をもって知らされています。育ち盛りの5人の子供を抱えて毎月送金するのは、決して楽ではありません。次男の義照は就職して1年、毎月給料の中から3万円を兄に仕送りしています。妻と残りの子供たちは、小学生の末っ子は少し早く寝るものの、全員で毎晩12時までコンピュータ部品の組み立ての内職をし、子供たちはその収入の中から小遣いはもちろん、服や靴、自転車などの必需品を自分たちで賄っています。家計を切り詰めるために遊びに行ったり、おいしいものを食べたりに、新しい服を買ったりすることもが

まんです。

しかし宣教師として召しを果たしている長男の成長ぶりを知る喜びはとも言葉では言い表わせません。以前は二世として育った息子がはたして真の改宗をしているのかどうか心配していましたが、伝道に出て2、3カ月もたつとイエス・キリストに対する力強い証と、み業を推し進めるためにもっと働きたいという強い願いを手紙に書いてくるようになりました。息子の伝道の喜びは家族全員の喜びです。生活を切り詰めてでも、少しでも多く送金してやりたいという気持ちが強くわいてきます。私は伝道の貴いみ業のための資金を援助できることに心から感謝しています。下にまだ5人控えています。全員に伝道に出てほしいと願っています。家族みんなで助け合って、神様のみ業のために働きたいと心から思っています。(たかとり・ゆうぞう 1941年生まれ、監督)

友達の模範



名古屋西ステーク部
高畑ワード部
高鳥義照

「義照、伝道に出るのか。」幼い私は両親にこう聞かれると、ほめられるのがうれしくて意味もわからず「うん」と返事をしていました。ところが小学校に入ると、日曜日には友達と遊びに行けず、「よくそんなに続けて教会に行くなあ」と皮肉を言われ、学校の友達との間に教会という壁があることは私にとってとても苦痛になりました。初等協会は私たち兄弟だけで、そんな悩みを話す友達もいませんでした。

中学3年の後半、セミナーに年上の改宗者が数人加わりました。彼らは証も強く、伝道に対してもとても強い気持ちを持っていました。彼らの模範を見、小学生のころは知恵の言葉も友達に話し出せなかった私が、教会についてだんだん積極的に話すようになりました。そして2年前のユースカンファレンスで皆と伝道について話したとき、早く出たくて計画を立てている人が何人もいることを知り、また自分しか改宗できない人がいると聞かされて、私も早く伝道に出たいと強く思うようになりました。そして1年前、伝道に出る兄とひとつの約束を交わしました。兄の伝道中私が働いて伝道資金を送り、兄が帰還すると今度は私が送ってもらうのです。

1年前に高校を卒業して就職し、毎月給料の4分の1を兄に送金しています。什分の一を納め、通勤費、昼食代を引けば、自由になるお金はほとんどありません。ボーナスもスーツを買えばなくなってしまいます。でもこんな生活でも、今の私には伝道に出るといふ張り合いがあります。人見知りをする性格が克服できるよう、いろいろな人に気軽に話しかけるようにしていま

す。職場や付き合いの酒席で知恵の言葉に関するトラブルはつきものですが、子供のときのように口を閉じてしまうのではなく、笑顔で接して説明したり、その場を盛り上げたりする努力をしています。この世のひずみの中で苦しんでいる人々のためにも、兄が帰次第、伝道に出て福音を宣べ伝えたいと心から望んでいます。(たかとり・よしてる 1971年生まれ、ワード部書記補助)

主に仕える特権



東京北伝道部専任宣教師
高鳥雅彰

初等協会に集っていたとき、「ぼくがおおきくなったら、せんきょうしになりたい」と歌うたびに、私の伝道への決意は固くなっていきました。私の人生設計の中には伝道が当然のように入っていましたが、伝道資金をためるためにまず働いて、21歳で伝道に出ようと考えていました。ところが両親と弟が資金の援助をしてくれると言ってくれ、恵まれて19歳で出ることができました。自分でためたお金は伝道に持って行く物を買そろえるのにほとんど使ってしまったので、援助をしてくれる家族に心から感謝しています。

伝道するときにはいつも、神様が導いてくださるのを感じます。約4カ月前のある夜、教会でのレッスンの合間に15分ほど時間があき、伝道部長の「短い時間でも伝道しなさい」という言葉に従って、教会の周囲を街頭伝道することにしました。いつもはにぎやかな駅の方に向かうのですが、その日はなぜか街灯もほとんどない暗い道に行ってしまいました。時間はあっという間に過ぎ、ひと回りして教会の近くまで戻ってきても出会ったのはひとりだけでした。そのとき学生ふうの男の人が向こうから歩いてきました。「もう時間がない。どうしよう。」一瞬

ためらったもののそれ以上は考える余裕もなく、自転車を止めて大きな声で「こんばんは」と話しかけていました。短く言葉を交わした後、3日後に教会で会うことになりました。その人はイエス・キリストに興味を持っていたので、レッスンも週2回ぐらいのペースで進み、主に対する信仰を持つものにも長い時間はかかりませんでした。レッスンではいつも私たちが話をしようと思っていることを先に質問し、定例集会にもよく出席しました。ところがバプテスマは受けようとしません。3回チャレンジをし、3回とも断られました。ただ「神様と教会についてわかってから」と言うばかりでした。そのうち、レッスンの中で祈る彼の言葉がだんだん変わってきました。福音を知りたい、もっと理解したい、と祈るようになってきたのです。

ある日私たちは知恵の言葉について教えた後、4度目のバプテスマチャレンジをしました。そのときは彼は何も言わず、ただ「はい」という返事とともに、バプテスマを受けることに同意しました。彼はその前日アルバイト先でライターを紛失したのですが、以前日曜学校で耳にしていた知恵の言葉を守るためにたばこをやめようかと思っていた矢先の出来事だったので、神様のみこころを感じてたばこをやめる決意をしたところだったのです。2週間後彼はバプテスマを受けました。この経験を通して指導者やみたまに従うことの大切さを改めて教えられました。

神様は伝道を通して大きな喜びをくださいます。伝道は本当に楽しいです。人々の幸福に満ちた顔を見、前世からの友と共に神様のみもとに行く準備ができます。数カ月前にバプテスマを受けたある兄弟は今、神様のみもとに帰りたいと心から願い、すべての犠牲を喜びとして伝道に出る準備をしています。今、私はみ業を推し進めるためにすべての時間を使える特権に心から感謝しています。この教会は真実であり、伝道の業が確かに神様のみ業であり、モルモン経が真実の書物であることを心から証します。(たかとり・まさあき 1970年生まれ、名古屋西ステーク部高畑ワード部出身)

日本宣教師訓練センター(JMTC) を訪ねて—前編—

1989年12月31日現在、日本で働く宣教師は日本人286名を含む1,430名。毎月宣教師を各地に送り出すJMTC。入所から出発までの13日間、新任の宣教師は多くの教師により、健康に関する知識から、宣教師として成功するための技術や態度までたくさんのことを教えられる。東京神殿別館で行なわれる訓練期間、一体どんな生活が彼らを待っているのだろうか。130期生を見てみよう。



初日 は忙しい。伝道部長の面接の合間に名札をもらい、教材を買い、教義と聖約4章の暗記、配用のモルモン経の印付けなどを次々としていく。懐かしい友との感動の再会の場面も見られる。



JMTCの朝

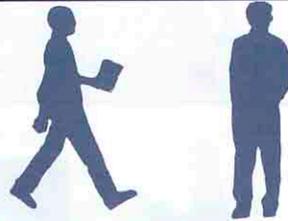
は早い。まだ暗いうちから運動に出かける。食事は土野姉妹の手作り。でも安息日には自分たちで作る。





2日目

からは本格的に講義が始まる。目標設定、信頼関係を築く、個人の正しさと霊性など、講義を聞く表情は真剣そのもの。でもさすがに休憩時間には疲れが見える。今回は特別にジーン・R・クック長老夫妻の来訪もあった。



安息日

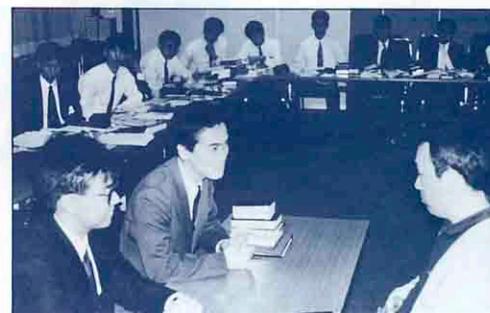
の定例会や家庭の夕べは神殿宣教師と一緒に。



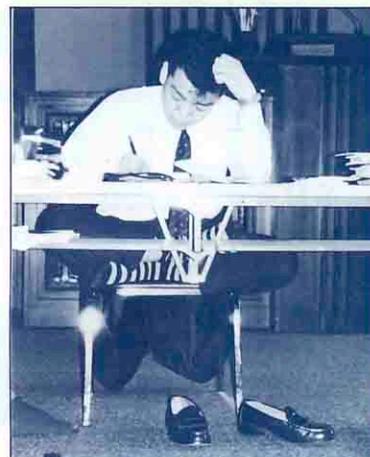


初めての街頭伝道。

最初は互いに練習し、祈ってから出かける。慣れない彼らの言葉にゆっくり耳を傾けてくれる人は多くはない。それでもレッスンの約束がとれて喜びに涙を流し、実際に別館でレッスンを始めた組もいた。求道者の同意があれば、同僚学習の時間に皆の前でレッスンをする。



準備の日 (P-day)は短い。洗濯、買い物、両親への手紙など、時間はあっという間に過ぎる。アイロンを初めて握る人には土野姉妹が教えてくれる。そして締めくくりはアイスクリーム？



ラルフ・N・士野所長からひと言

「宣教師を迎えるときに一番気を付けるのは、皆に愛されているという気持ちを持ってもらうことです。オリエンテーションでも、同僚や求道者はもちろんすべての人を愛することを強調して教えます。JMTCを出るとき、長老も姉妹も喜んで任地へ向かいます。

いつか彼らが結婚するときも、そのように喜びに満ちた家庭を持ってくれたらと思いますよ。」

ユリコ・L・士野姉妹からひと言

「宣教師がいる間は食事の準備で一日が終わります。たくさん食べて元気で頑張ってほしいと思います。」



4月に召された専任宣教師 第131期生 29人



後列左から1-11, 中列左から12-21, 前列左から22-29

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 池原秀夫	沖縄那覇S / 沖縄W	東京南伝道部
2. 佐藤宣良	岡山S / 出雲B	札幌伝道部
3. 松尾威知郎	東京東S / 牛久W	神戸伝道部
4. 中谷典正	横浜S / 横浜中央W	仙台伝道部
5. 林義之	広島S / 柳井B	仙台伝道部
6. 香西満	東京東S / 牛久W	神戸伝道部
7. 美上憲一	仙台S / 長町W	東京南伝道部
8. 住吉薫	広島S / 五日市W	福岡伝道部
9. 中村恒紀	札幌西S / 琴似W	福岡伝道部
10. 赤木康介	大阪北S / 茨木W	仙台伝道部
11. 古谷明寛	広島S / 柳井B	神戸伝道部
12. 鈴木正己	札幌西S / 藻岩W	福岡伝道部
13. 矢野信一	東京S / 三鷹W	神戸伝道部
14. 念垣愛樹	東京S / 所沢W	福岡伝道部
15. 泉山啓恵美	横浜S / 上大岡W	福岡伝道部
16. 佐々木潤子	東京西S / 国立W	神戸伝道部
17. 大呑教恵	山口D / 宇部B	福岡伝道部
18. 沼野恵理	神戸S / 西宮W	東京南伝道部
19. 穂坂真理子	大阪北S / 京都洛北W	岡山伝道部
20. 平田美智子	札幌西S / 小樽W	東京北伝道部
21. 杉田育子	大阪堺S / 河内長野B	東京南伝道部
22. 栗城幸子	東京北S / 豊島W	神戸伝道部
23. 渡辺奈緒子	東京北S / 中野W	札幌伝道部
24. 幸地妙子	沖縄那覇S / 那覇W	札幌伝道部
25. 中園あつ子	大阪北S / 花屋敷W	福岡伝道部
26. 糸数りいな	沖縄那覇S / 沖縄W	東京北伝道部
27. 大川好恵	大阪北S / 豊中東W	東京北伝道部

地区代表変更の お知らせ

★中村晴兆長老の解任に伴い、新たに青柳弘一長老が地区代表として召されました。担当地区は、東京、東京南、東京西、町田、横浜、静岡地区です。なお浅間玄也長老は、大阪、大阪北、大阪堺、神戸、名古屋、名古屋西地区の担当となります。

新役員の内命

1990年3月24日から1990年4月16日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の内命(敬称略)

- 熊本地方部佐世保支部
新支部長：一丸俊雄
(前任者：浦山昌志)
- 北陸地方部福井第1支部
新支部長：野崎史郎
(前任者：林洋一)
- 秋田地方部酒田支部
新支部長：村岡由美夫
(前任者：吉泉純生)
- 大阪北ステークキ部城陽支部
新支部長：吹田栄二
(前任者：八反田哲司)

新ユニット

★熊本地方部白川支部(1990年3月4日、熊本支部、長嶺支部、熊本北支部から分割)支部長：小笹康正

- 28. 市川典子 大阪北S / 京都洛北W 東京北伝道部
- 29. 長嶺由美子 沖縄那覇S / 小樽W 仙台伝道部

S：ステーク部, D：地方部, W：ワード部, B：支部